

“しゃん”とした姿勢と  
服装・下着に関する調査

昭和63年9月

株式会社ワコール

## “しゃん”とした姿勢と服装・下着に関する調査 《目次》

調査企画	1
調査結果の内容【女性編】	4
I 『しゃん』とした姿勢やボディに関する意識と実態	4
1.まわりの人をみて、一般的に姿勢は良いか	4
2.自分自身の姿勢は良いか	6
3.自分の姿勢や歩き方をチェックすること	8
4.『しゃんとした女性』とは…?	10
5.『しゃん』としなければいけないと思う時	11
6.『しゃん』とした気分になる時	12
7.ボディラインの出る衣類の所有状況	13
8.特に下着が気になる服装	15
9.自分のボディを鏡に写してチェックすること	16
10.自分のボディで特に気になるところ	18
11.男性のボディで一番気になるところ	19
12.自分のボディのためにしていること	20
13.自分のおしゃれにとって、特に効果があるもの	22
II ガードルの着用状況	23
1.ガードルの着用程度	23
2.ガードルの所有状況	26
3.ガードルの使いわけ	29
4.ガードルの正しい着用の仕方	31
5.ガードルがよく効く部分	33
調査結果の内容【男性編】	35
1.まわりの人をみて、一般的に姿勢は良いか	35
2.『しゃんとした女性』とは…?	37
3.つい目がいってしまう女性の服装	38
4.女性のボディで特に気になるところ	39
5.女性のボディでもっと努力したり、手入れをして整えた方がよいと思うところ	40
6.女性のウエスト、おなか、ヒップで、まず目がいくところ	41
7.日本の若い女性のボディの採点	42
8.自分のボディで一番気になるところ	43
9.自分のボディのためにしていること	44
10.ヒップアップさせる、あるいはおなかを押えるガードルのような下着の着用意向	45
11.自分のおしゃれにとって、特に効果があるもの	46
調査結果の内容【よく効くあれこれ】	47
1.よく効く結婚の条件	47
2.よく効くデートファッション	49
3.よく効く“口説き文句”	51
4.よく効くプレゼント	52

# 調 査 企 画

## 1. 調 査 目 的

この調査は、女性を対象に『姿勢やボディ』及び『服装・下着』などに関する意識と実態を捉えると同時に、男性の目からみた女性の姿勢やボディ、服装・下着などの意識も捉えることを目的に実施しました。

## 2. 調 査 対 象

女性：首都30Km圏に居住する18歳～34歳の女性

男性：首都30Km圏に居住する18歳～34歳の男性

## 3. 調査対象の抽出方法

調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する18歳～35歳の男女を調査対象として抽出しました。

女性：地点数 30地点（1地点あたり10～12名抽出）

男性：地点数 15地点（1地点あたり10～12名抽出）

## 4. 調 査 方 法

調査票による自記式留置法によりました。

## 5. 標 本 構 成

有効回収 女性300名、男性150名の標本構成は次の通りです。

（上段：サンプル数、下段：％）

女	性
---	---

### ① 年 齢

	サ ン プ ル 数	1 8   1 9 歳	2 0   2 1 歳	2 2   2 4 歳	2 5   2 9 歳	3 0   3 4 歳
全 体	300 100.0	51 17.0	60 20.0	46 15.3	55 18.3	88 29.3

② 未既婚

	サンプル数	未婚	既婚
全体	300 100.0	149 49.7	151 50.3

③ 職業

	サンプル数	学生	常勤	アルバイト パート	・内職 家業手伝い	専業主婦	その他
全体	300 100.0	81 27.0	73 24.3	38 12.7	6 2.0	98 32.7	4 1.3

④ 血液型

	サンプル数	A型	B型	A B 型	O 型
全体	300 100.0	111 37.0	56 18.7	37 12.3	96 32.0

⑤ 体型

	サンプル数	太り 気味	ふ つ う	ス マ ー ト	や せ 気 味
全体	300 100.0	23 7.7	70 23.3	133 44.3	74 24.7

男性

① 年齢

	サンプル数	18   19 歳	20   21 歳	22   24 歳	25   29 歳	30   34 歳
全体	150 100.0	13 8.7	34 22.7	39 26.0	30 20.0	34 22.7

② 未既婚

	サンプル数	未婚	既婚
全体	150 100.0	108 72.0	42 28.0

③ 職業

	サンプル数	学生	サラリーマン	商工自営	自由業	その他
全体	150 100.0	61 40.7	73 48.7	6 4.0	7 4.7	3 2.0

④ 血液型

	サンプル数	A型	B型	A B型	O型
全体	150 100.0	53 35.3	37 24.7	16 10.7	44 29.3

6. 調査期間

昭和63年6月23日～6月6日

## 調査結果の内容【女性編】

### I. 『しゃん』とした姿勢やボディに関する意識と実態

#### 1. まわりの人をみて、一般的に姿勢は良いか

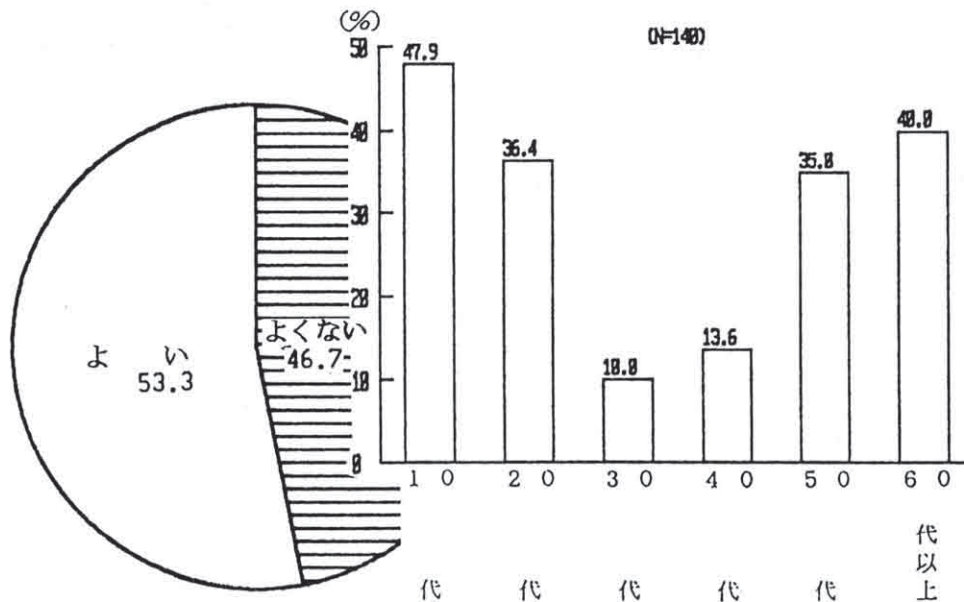
男性については46.7%、女性は44.7%が姿勢が「よくない」と思う

—特に姿勢がよくない年代は男女とも「10代」、次いで「60代以上」、「20代」—

ここでは、まわりの人をみていて、一般的に姿勢がよいと思うか、男性と女性のそれぞれについて聞いてみました。

#### ① まわりの男性の姿勢

<図-1> まわりの男性の姿勢と姿勢がよくない年代



まず、まわりの男性の姿勢についてみると、「よい」という人が53.3%と半数強を占めていますが、「よくない」という人も46.7%とほぼ半数近くみられます。

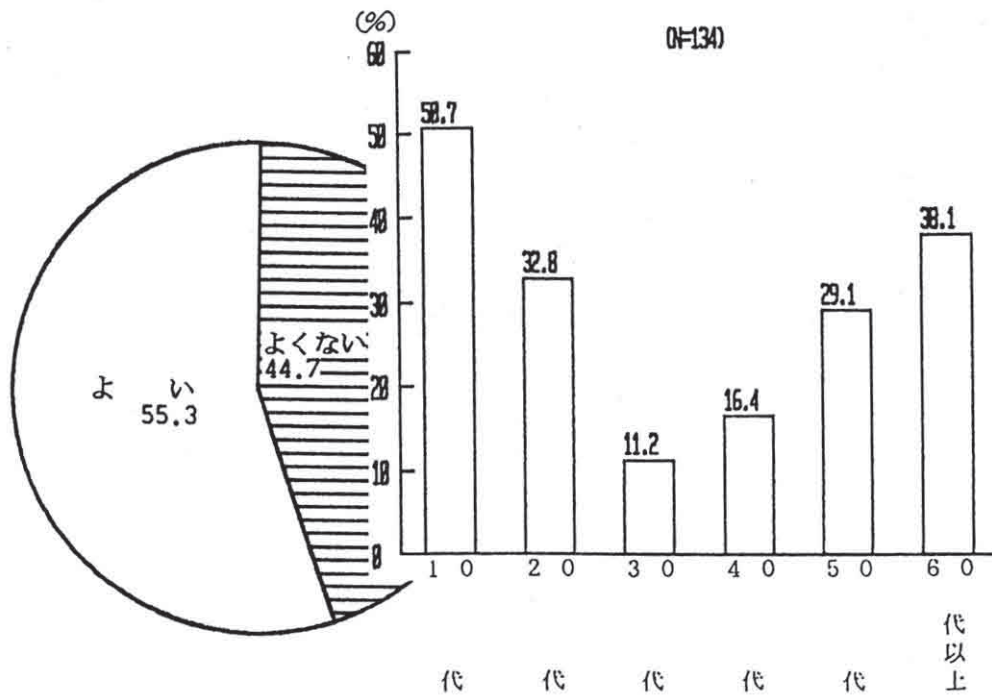
年齢別にみると、10代(18~19歳)では「よい」が64.7%と過半数を占め最も高率ですが、20代前半になると53.8%、20代後半が45.5%と、20代ではその割合は下がる傾向にあるものの、30代前半では再びアップし、「よい」(51.1%)と「よくない」(48.9%)に二分されています。

まわりの男性の姿勢がよくないという人に、特によくない年代をあげてもらったところ、「10代」という人が47.9%と最も多く、次いで「60代以上」(40.0%)、「20代」(36.4%)、「50代」(35.0%)の順となっており、これらの年代に比べて「30代」(18.8%)、「40代」(13.6%)は1割台と低率です。



② まわりの女性の姿勢

<図-2> まわりの女性の姿勢と姿勢がよくない年代



次に、まわりの女性の姿勢についてみると、「よい」という人が55.3%と半数強、「よくない」という人が44.7%と、男性に対する評価と同様の結果です。

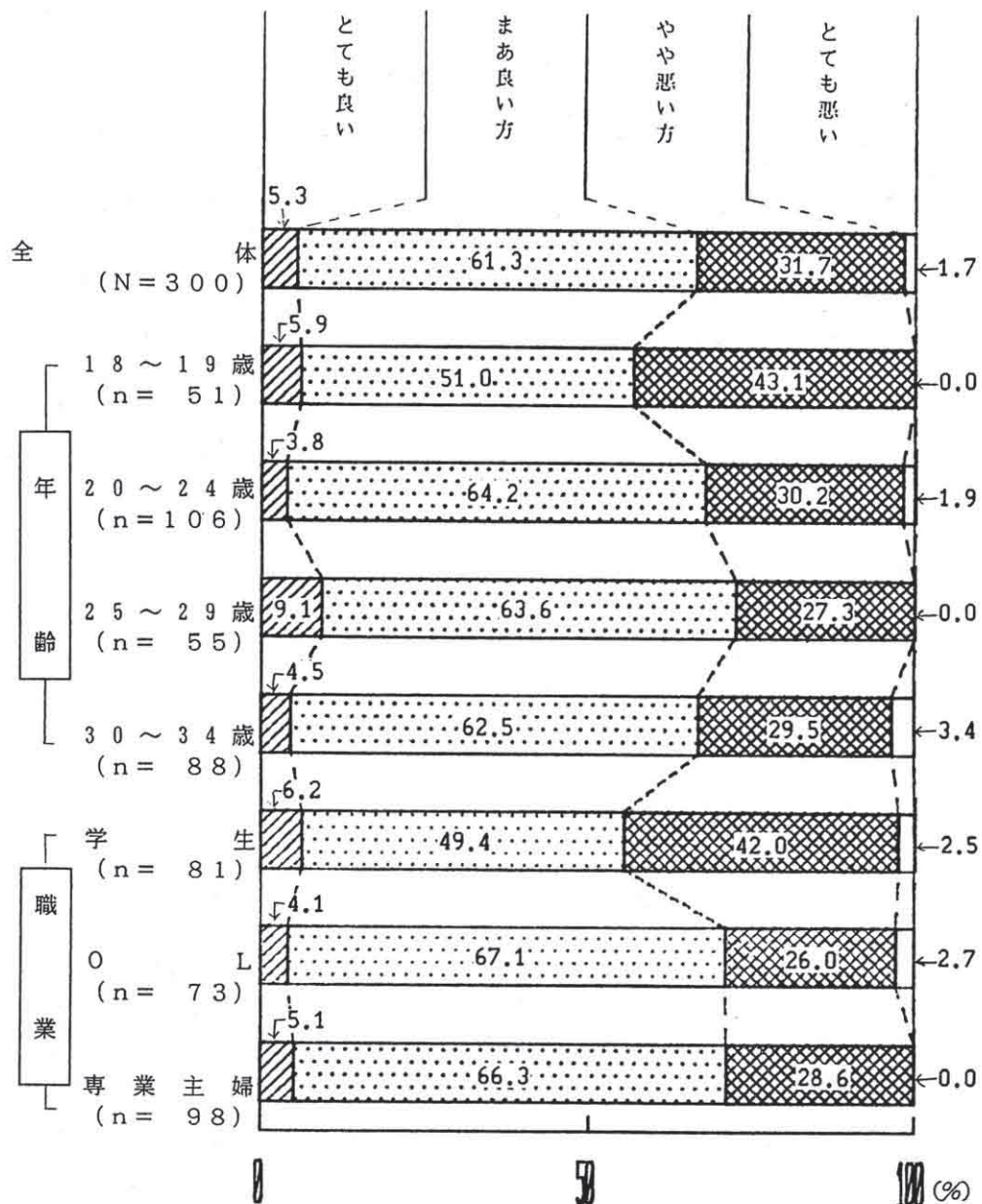
年齢別にみると、10代では「よい」が72.5%と過半数を占め、男性に対する評価と同様、最も高率ですが、20代前半になると55.7%に下がり、20代後半(47.3%)や30代前半(50.0%)では「よい」と「よくない」に二分されています。

まわりの女性の姿勢がよくないという人に、特によくない年代をあげてもらったところ、男性に対する評価同様、「10代」という人が50.7%と最も多く、次いで「60代以上」(38.1%)、「20代」(32.8%)、「50代」(29.1%)の順となっており、これらの年代に比べて「30代」(11.2%)、「40代」(16.4%)は1割台と低率です。

## 2. 自分自身の姿勢は良いか

3人に2人(66.6%)は「良い」。しかし、3人に1人(33.4%)は「悪い」  
 - 10代では4割強(43.1%)が「悪い」 -

<図-3> 自分自身の姿勢



では、自分自身の姿勢についてはどのようにみているのでしょうか。

「とても良い」という人は5.3%とわずかですが、「まあ良い方」が61.3%と過半数を占め、3人に2人(66.6%)は「良い」とみています。しかし、残りの3人に1人(33.4%)は「悪い」(やや+とても)と答えています。

年齢別にみても、いずれも「良い」という人の方が「悪い」という人より多くなっていますが、若い人ほど「悪い」という割合が高い傾向がみられ、10代では4割強(43.1%)が



「悪い」と答えています。

職業別にみても、いずれも「良い」という人の方が多い傾向は変わりませんが、学生では「悪い」が44.5%と、OL(28.7%)や専業主婦(28.6%)に比べてやや多くなっているのが目につきます。

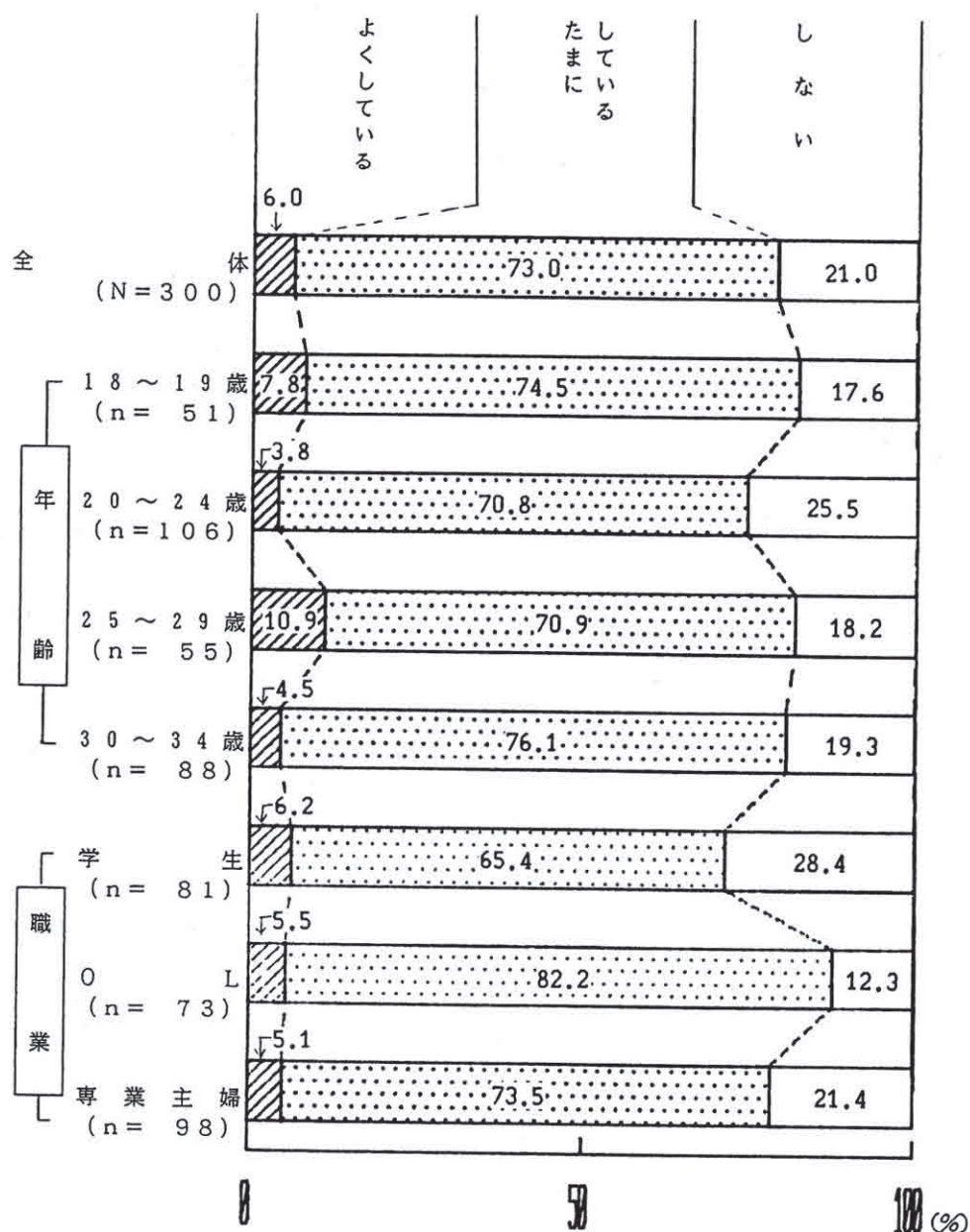
体型別にはそれほど違いはみられませんが、「悪い」という割合はウエストサイズ別では“太い方”が40.5%と最も高く、ヒップサイズ別ではヒップが大きい人ほど高くなっています。

なお、前述したまわりの女性の姿勢との比較をみると、4人に1人(25.3%、76名)はまわりの女性に対する評価より自分自身の姿勢の方が「良い」とみていますが、1割強(14.0%、42名)は自分自身の方が「悪い」とみています。

### 3. 自分の姿勢や歩き方をチェックすること

5人に4人（79.0%）が「している」。しかし「していない」人も2割（21.0%）  
 - 「している」割合はOLがトップ（87.7%） -

<図-4> 自分の姿勢や歩き方のチェック



次に、自分の姿勢や歩き方をチェックしているかどうか聞いてみたところ、「よくしている」という人は6.0%にすぎませんが、7割強（73.0%）は「たまにしている」人で、合わせて5人に4人（79.0%）は「している」と答えています。しかし、「しない」という人も21.0%と5人に1人の割合みられます。

年齢別にみても、いずれも「している」という人が7割～8割強と過半数を占めていますが、20代前半では「しない」が25.5%と、他の層に比べてやや多くなっているのが目に

つきます。

職業別にみると、「している」割合はOLが9割弱（87.7%）と最も高率で、次いで専業主婦（78.6%）、学生（71.6%）の順となっています。

なお、体型別にみると、太り気味の人ほど「しない」という割合が高い傾向がみられます。また、前項で自分の姿勢が“良い”という人では「している」割合が8割強（82.0%）であるのに対し、“悪い”という人では7割強（73.0%）と10ポイント近い差がみられます。

4. 『しゃんとした女性』とは. . . ?

「細くてスタイルのよい」（15名）、「歩き方のきれいな」（14名）人、たとえば「キャリアウーマン」のような女性（36名）

<表-1>しゃんとした女性（ベスト10）

順位	しゃんとした女性	件数
1	キャリアウーマン	36
2	細くてスタイルのよい人	15
3	歩き方のきれいな人	14
4	シャキッとしている人	11
4	自分の目的、目標を持っている人	11
4	自己主張・自信のある人	11
4	自分の生き方がわかっている人	11
8	スーツ姿で仕事をしている人	10
9	自分の意見を持っている人	9
10	健康的な人	8

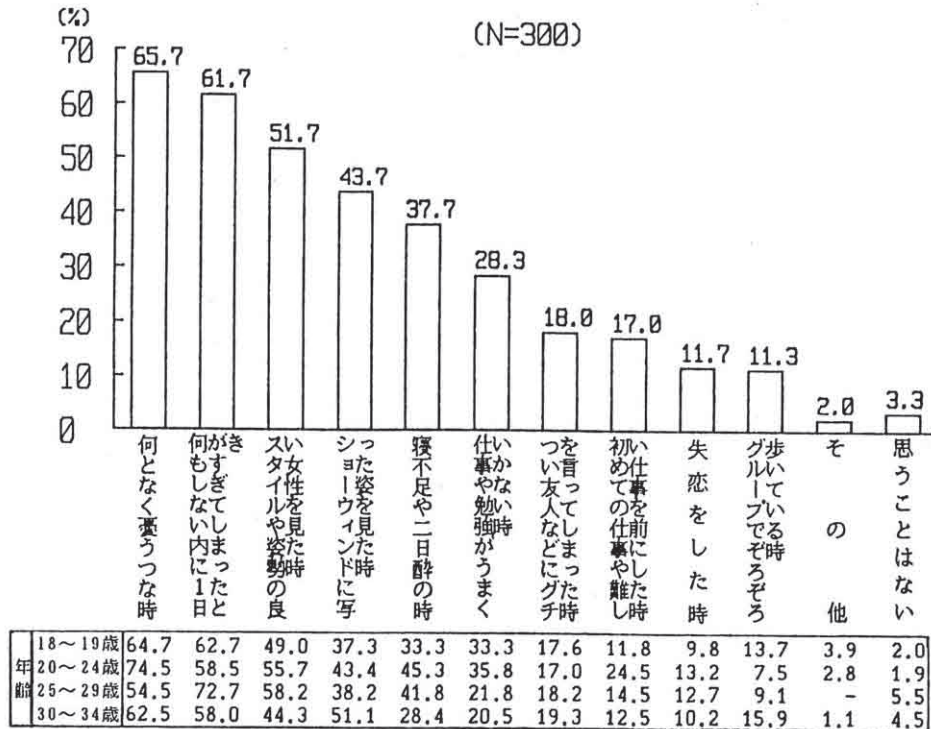
『しゃんとした女性』というと、どんな女性を思い浮かべるか自由にあげてもらったところ、「キャリアウーマン」という人が36名と最も多く、次いで「細くてスタイルのよい人」（15名）、「歩き方のきれいな人」（14名）が続きベスト3となっています。以下「シャキッとした女性」、「自分の目的、目標を持った人」、「自己主張・自信のある人」、「自分の生き方がわかっている人」がそれぞれ11名、また、“キャリアウーマン”を指しているのでしょうか、「スーツ姿で仕事をしている人」（10名）という人も多くなっています。このように、『しゃんとした女性』とは“何か一本筋の入った女性”とみている人が多いようです。



5. 『しゃん』としなければいけないと思う時

「何となく憂うつな時」(65.7%)、「何もしない内に1日が過ぎてしまった時」(61.7%)、「スタイルや姿勢の良い女性を見た時」(51.7%)などは“しゃん”としなければ、と思う

<図-5> 『しゃん』としなければいけない時 (複数回答)



どんな時に『しゃん』としなければいけないと思うか聞いてみたところ、「何となく憂うつな時」という人が65.7%と最も多く、次いで「何もしない内に1日が過ぎてしまった時」が61.7%、「スタイルや姿勢の良い女性を見た時」が51.7%で続きベスト3となっています。そのほかでは4割前後が「ショーウィンドウに写った自分の姿を見た時」(43.7%)、「寝不足や二日酔いの時」(37.7%)、3割弱が「仕事や勉強がうまくいかない時」(28.3%)をあげています。

年齢別や職業別にみても、上位にあげられている項目は全体と同様ですが、10代、20代前半及び30代前半では「何となく憂うつな時」、20代後半では「何もしない内に1日が過ぎてしまった時」がそれぞれトップです。また、30代前半では「ショーウィンドウに写った自分の姿を見た時」という人が51.1%と他の層に比べて多く、第3位にランクされているのが目立ちます。

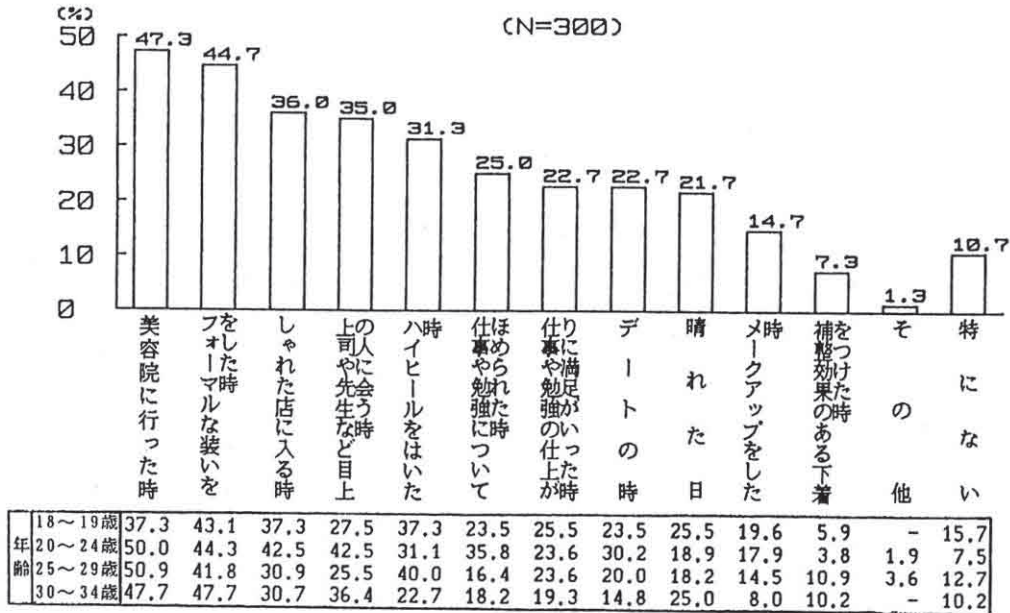
なお、「ショーウィンドウに写った自分の姿を見た時」をあげる割合は体型が太り気味の人ほど高く、体型が“太り気味”の人では7割強(73.9%)で第2位にあげられています。それに対し、“スマート”な人や“やせ気味”の人では3割台と大差がみられます。また、自分の姿勢が“良い”という人の方が“悪い”という人より、対抗意識の表われでしょうか、「スタイルや姿勢の良い女性を見た時」をあげる割合が高くなっています。



6. 『しゃん』とした気分になる時

「美容院に行った時」(47.3%)、「フォーマルな装いをした時」(44.7%)  
 「しゃれた店に入る時」(36.0%)がベスト3

<図-6> 『しゃん』とした気分になる時(複数回答)



では、『しゃん』とした気分になる時はどんな時なのでしょう。

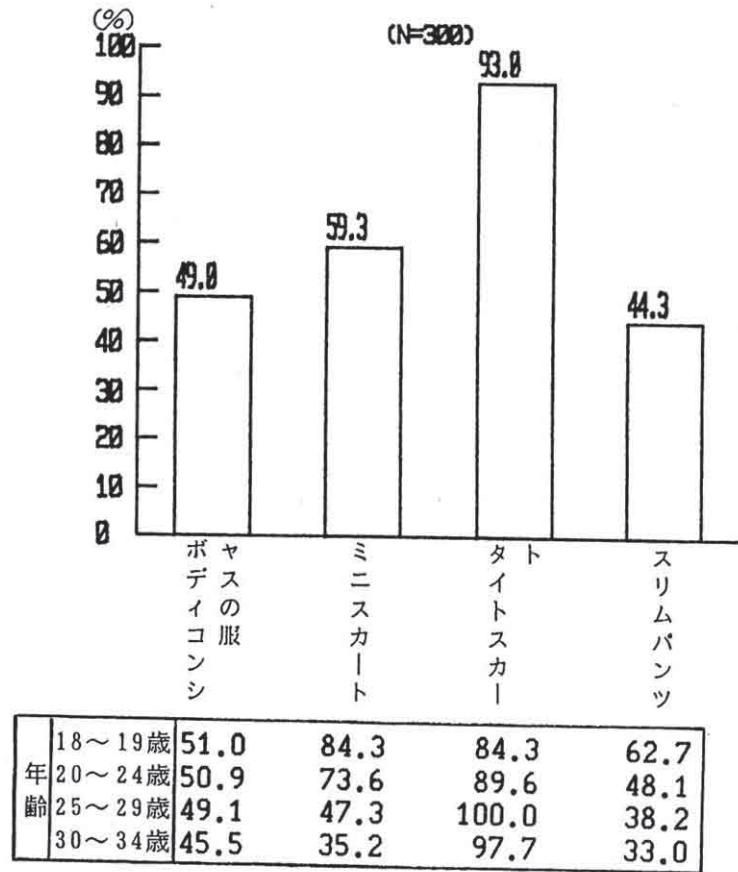
「美容院に行った時」という人が47.3%と最も多く、以下「フォーマルな装いをした時」(44.7%)、「しゃれた店に入る時」(36.0%)、「上司や先生など目上の人に会う時」(35.0%)、「ハイヒールをはいた時」(31.3%)などが続いています。また、「特にない」という人も1割(10.7%)います。

年齢別や職業別にみても、上位にあげられている項目は全体と同様です。「しゃれた店に入る時」、「上司や先生など目上の人に会う時」、「デートの時」をあげる割合は20代前半がピークになっています。また、若い人ほど「仕事や勉強の仕上りに満足がいった時」や「メイクアップをした時」をあげる割合が高くなっています。全体では1割弱(7.3%)と低率である「補整効果のある下着をつけた時」をあげる割合は年齢が上の人ほど高く、職業別ではOL(11.0%)が最も高くなっています。

7. ボディラインの出る衣類の所有状況

「タイトスカート」-----93.0%	「ミニスカート」-----59.3%
「ボディコンシャスの服」--49.0%	「スリムパンツ」-----44.3%

<図-7> ボディラインの出る衣類の所有率



ここでは、『ボディコンシャスの服』『ミニスカート』『タイトスカート』『スリムパンツ』といわゆるボディラインが影響する衣服の所有状況を聞いてみました。

所有率は「タイトスカート」が93.0%と最も高率で、以下「ミニスカート」(59.3%)、「ボディコンシャスの服」(49.0%)、「スリムパンツ」(44.3%)となっています。

年齢別にみると、「タイトスカート」の所有率は年齢に関係なく高率を示していますが、そのほかの衣類は若い人ほど所有率が高く、10代では「ミニスカート」が84.3%と「タイトスカート」と同率でトップになっています。また、20代前半でも「ミニスカート」の所有率は7割強(73.6%)を示していますが、20代後半～30代前半では5割を割っています。

職業別にみても、いずれも「タイトスカート」の所有率は高率ですが、そのほかの衣類の所有率は学生やOLに比べて専業主婦は低くなっています。特に「ミニスカート」は学生(87.7%)やOL(72.6%)に比べて専業主婦では3割強(32.7%)と大差があ

ります。

また、体型別にみても、「タイトスカート」の所有率が高率なのは変わりませんが、体型がスマートあるいはやせ気味の人ほど「ボディコンシャスの服」、「ミニスカート」、「スリムパンツ」の所有率は高くなっています。

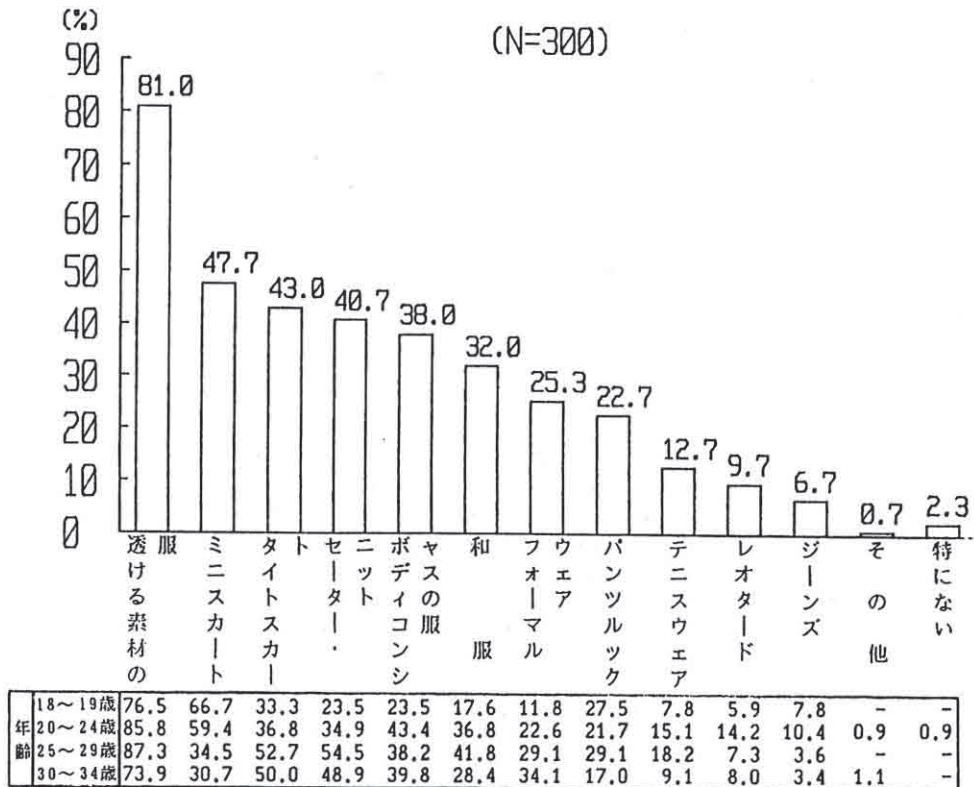
身長別で見ると、身長の高い人ほど所有率が高くなっており、サンプルは少数ですが身長が“166cm以上”の人では「タイトスカート」が全員所有、そのほかの衣類も7割台を示しています。



## 8. 特に下着が気になる服装

第一に「透ける素材の服」(81.0%)。そして「ミニスカート」(47.7%)、「タイトスカート」(43.0%)、「セーター・ニット」(40.7%)など

<図-8>下着が気になる服装(複数回答)



どんな服装の時に、特に下着が気になるか聞いてみたところ、「透ける素材の服」をあげる人が81.0%と群を抜いています。そのほかでは5人に2人以上が「ミニスカート」(47.7%)、「タイトスカート」(43.0%)、「セーター・ニット」(40.7%)などを、4人に1人以上が「ボディコンシャスの服」(38.0%)、「和服」(32.0%)、「フォーマルウェア」(25.3%)をあげています。

年齢別や職業別にみても、いずれも「透ける素材の服」が7割台~8割台と圧倒的に多くなっていますが、年齢別にみると、若い人ほど「ミニスカート」を、年齢が上の人ほど「タイトスカート」をあげる割合が高くなっています。また、職業別でみると、学生で「ミニスカート」(76.5%)、専業主婦で「タイトスカート」、「セーター・ニット」をあげる割合が他の層に比べて高率なのが目につきます。

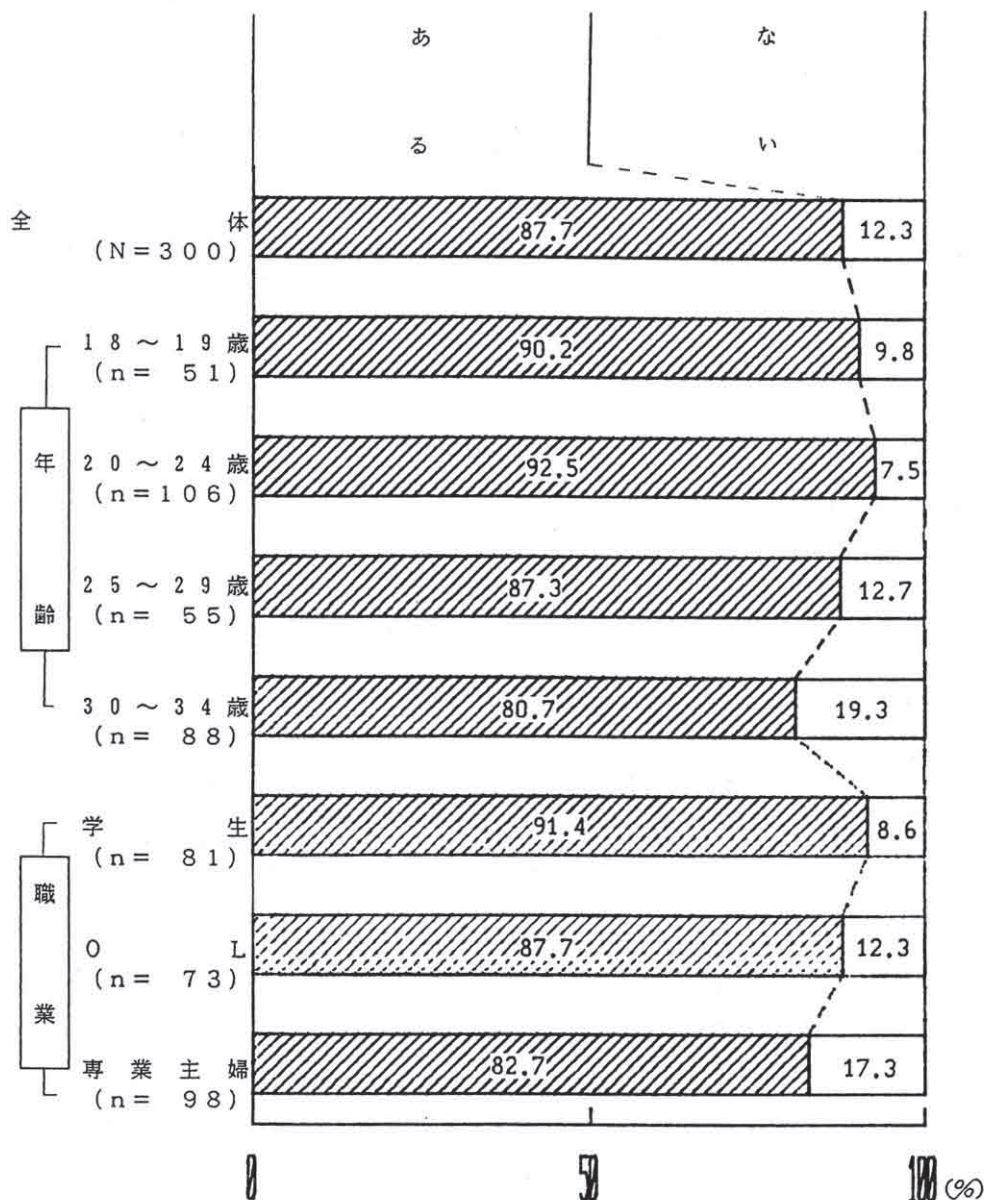
体型別にみても「透ける素材の服」が高率なのは変わりませんが、“やせ気味”の人では「ボディコンシャスの服」(63.5%)や「ミニスカート」(59.5%)をあげる割合が他の層に比べて高くなっています。

また、ウエストが細い人ほど、あるいはヒップが小さい人ほど「ボディコンシャスの服」や「ミニスカート」の割合が高い傾向がみられます。

9. 自分のボディを鏡に写してチェックすること

9割弱（87.7%）がチェックすることが「ある」。さらに、その8割弱（77.6%）は後姿のチェックも「している」

<図-9>ボディを鏡に写してチェックすること



自分のボディを鏡に写してチェックすることがあるか聞いてみたところ、「ある」という人が87.7%と圧倒的に多くなっていますが、1割強（12.3%）は「ない」と答えています。この「ない」という人は30代前半で2割（19.3%）、専業主婦で2割弱（17.3%）います。また、体型が“太り気味”の人では3割（30.4%）に達しています。

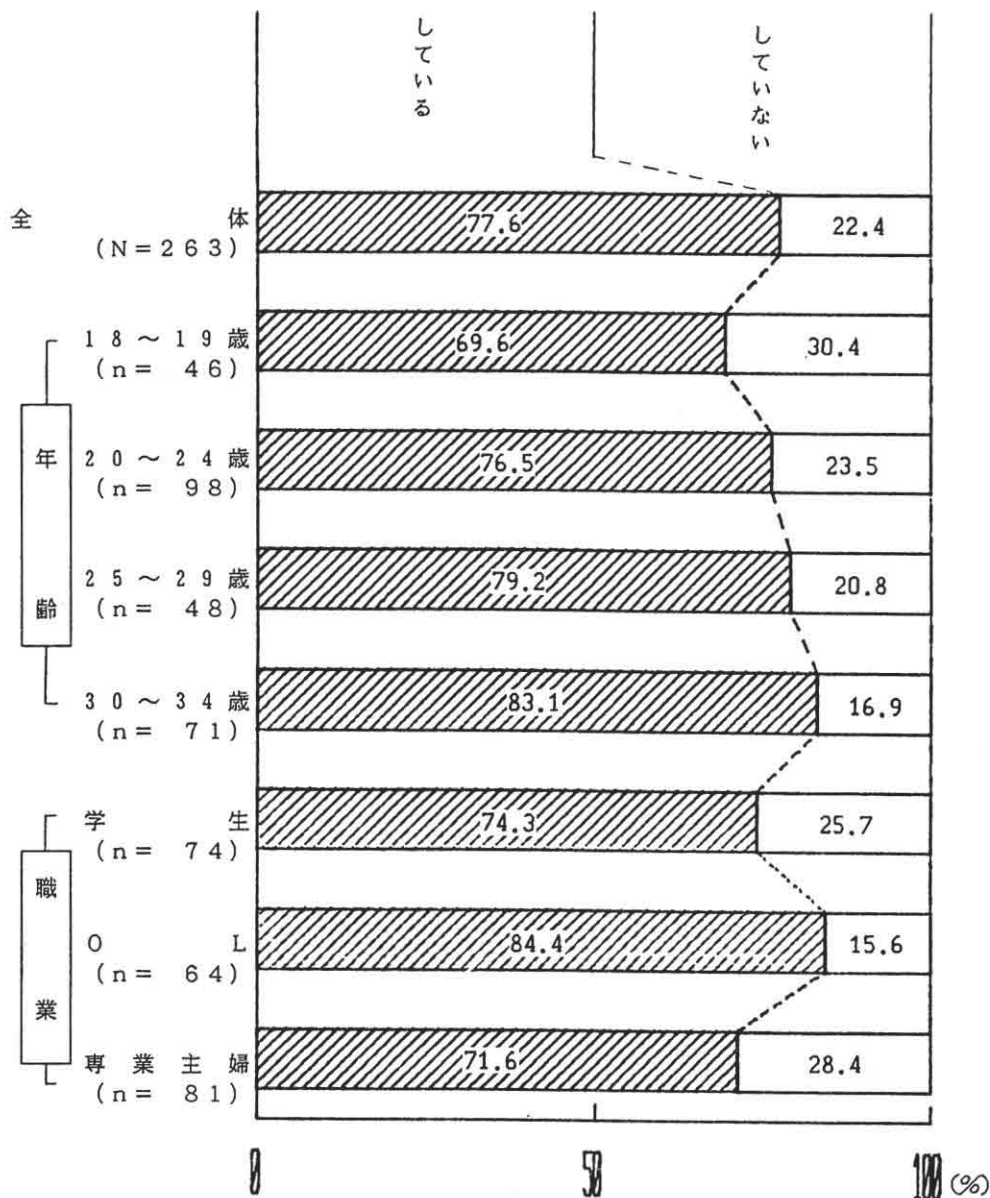
年齢別や職業別にみても、「ある」という人が圧倒的で、10代~20代後半までは9割前後を示していますが、30代前半では8割（80.7%）とやや差がみられます。また、職業別では「ある」という割合は学生が最も高率（91.4%）で、次いでOL（87.7%）、



%)、専業主婦(82.7%)の順となっています。

体型別にみると、体型が“ふつう”、“スマート”、“やせ気味”の人では「ある」が9割前後と圧倒的ですが、“太り気味”の人では7割(69.6%)と20ポイント近い差があります。

<図-10>後姿のチェック (N=ボディをチェックする人)



次に、自分のボディをチェックする人に後姿のチェックもしているのかどうか聞いてみたところ、「している」が77.6%と4人に3人強の割合となっています。これは調査対象者全体では68.0%、3人に2人の割合となっています。

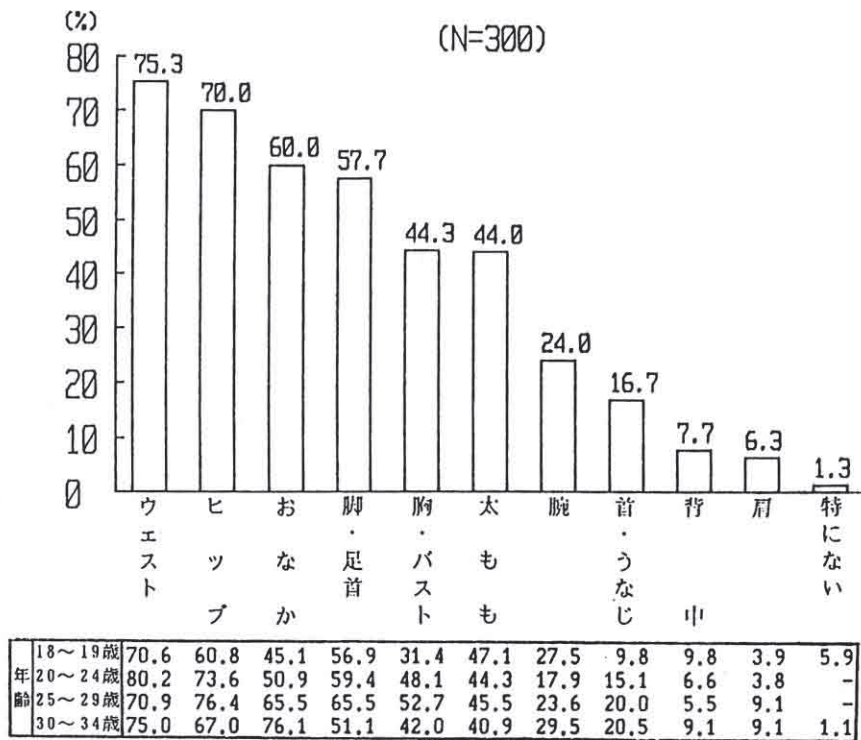
年齢別にみると、年齢が上の人ほど「している」割合が高く、職業別ではOL(84.4%)が最も高率です。

また、体型別にみると、体型がスマートあるいはやせ気味の人の方が後姿もチェックしているようです。

10. 自分のボディで特に気になるところ

「ウエスト」(75.3%)、「ヒップ」(70.0%)、「おなか」(60.0%)が特に気になる

<図-11>ボディで特に気になること(複数回答)



自分のボディで特に気になるところはどこか聞いてみたところ、最も多かったのは「ウエスト」で、75.3%と4人に3人があげています。以下「ヒップ」(70.0%)、「おなか」(60.0%)、「脚・足首」(57.7%)、「胸・バスト」(44.3%)、「太もも」(44.0%)などが続いています。

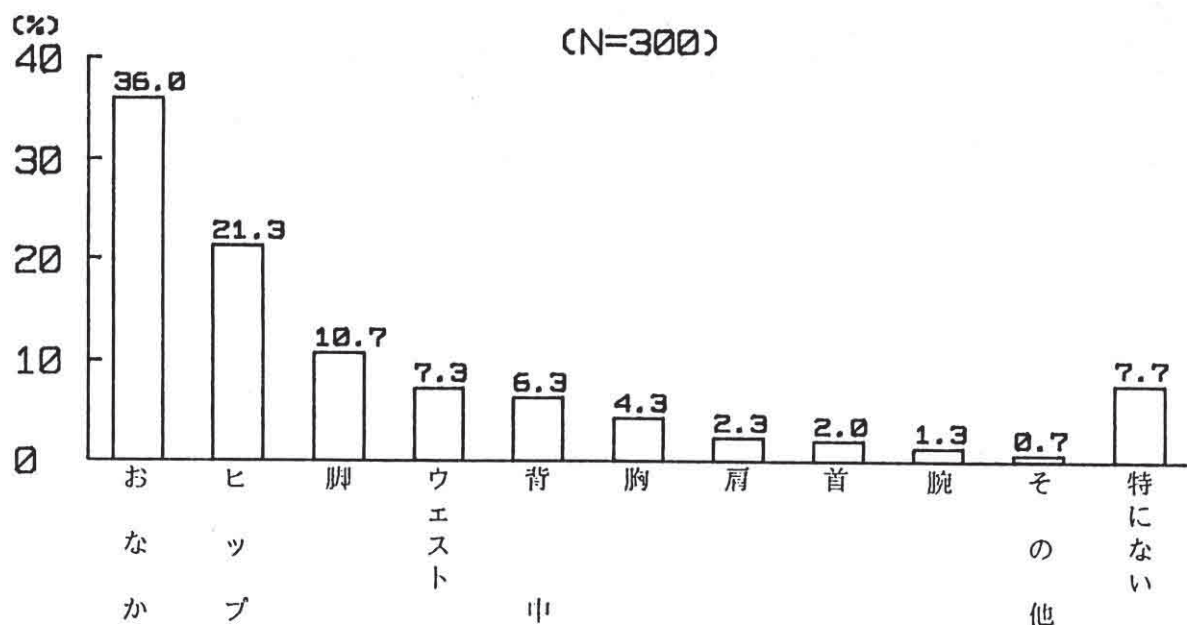
年齢別にみると、いずれも上位にあげられているものは全体と同様で、10代~20代前半で「ウエスト」、20代後半で「ヒップ」がトップ、年齢が上の人ほど「おなか」をあげる割合が高く、30代前半(76.1%)では僅差でトップになっています。

体型別にみると、「ウエスト」は体型に関係なく7割台と高率ですが、「おなか」、「太もも」、「腕」などは体型が太り気味の人ほど気になるようです。

## 11. 男性のボディで一番気になるところ

第一に「おなか」（36.0%）、次いで「ヒップ」（21.3%）

<図-12> 男性のボディで気になるところ



男性のボディで一番気になるところはどこか、1つだけあげてもらったところ、「おなか」という人が36.0%と最も多く、次に「ヒップ」が21.3%で続き、ほぼ5人に3人（57.3%）がこの2つのいずれかをあげています。そのほかでは「脚」（10.7%）、「ウエスト」（7.3%）、「背中」（6.3%）など、また、「特にない」という人も1割弱（7.7%）います。

年齢別にみても、「おなか」と「ヒップ」が主ですが、年齢が上の人ほど「おなか」をあげる割合が高く、20代後半（40.0%）、30代前半（46.6%）では4割台に達しています。

未婚別にみると、未婚者では「おなか」（28.9%）と「ヒップ」（25.5%）が同程度ですが、既婚者では「おなか」が4割強（43.0%）と群を抜いています。

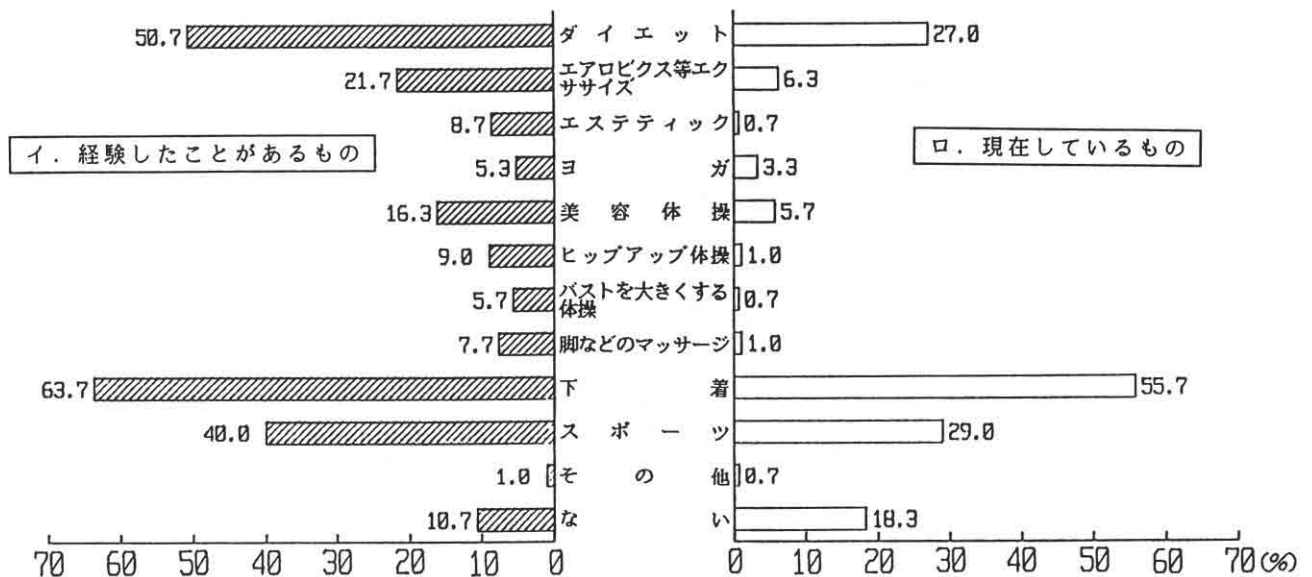
職業別にみても、いずれも「おなか」と「ヒップ」が多くなっているのは変わりませんが、専業主婦では「おなか」をあげる割合が45.9%と、学生（28.4%）やOL（30.1%）に比べて15ポイント以上高いのが目につきます。また、OLでは「脚」をあげる割合が学生や専業主婦に比べて10ポイント近く高くなっています。



## 12. 自分のボディのためにしていること

これまでに自分のボディのためには、「下着」(63.7%)を着用し、「ダイエット」(50.7%)に努め、「スポーツ」(40.0%)などをしてきた  
 現在していることも、「下着」(55.7%)、「スポーツ」(29.0%)、「ダイエット」(27.0%)がベスト3

<図-13>自分のボディのために経験したこと、していること(複数回答)



まず、自分のボディのためにこれまで経験したことをみると、「下着」が63.7%と最も多く、次いで「ダイエット」が50.7%、「スポーツ」が40.0%で続きベスト3となっています。以下やや差があって、「エアロビクス等エクササイズ」(21.7%)、「美容体操」(16.3%)が続き、「ヒップアップ体操」(9.0%)、「エステティック」(8.7%)、「脚などのマッサージ」(7.7%)は1割弱となっています。

年齢別にみても、いずれも「下着」、「ダイエット」、「スポーツ」が主流ですが、10代、30代前半では「下着」をあげる割合が5割台と20代の7割強に比べてやや低率を示しているのが目につきます。10代では「スポーツ」がほぼ半数(47.1%)と多くなっています。また、若い人ほど「美容体操」の割合が高くなっています。

次に、自分のボディのために現在していることをみると、やはり「下着」が55.7%と最も多く、次いで「スポーツ」が29.0%、「ダイエット」が27.0%で続き、ベスト3となっています。その他のことはいずれも1割未満で、ベスト3にあげられていることが主流のようです。また、「ない」という人が2割弱(18.3%)います。

年齢別にみても、いずれも「下着」が第一ですが、10代~20代後半までは「スポーツ」が3割前後で第2位にあげられているのに対し、30代前半では「ダイエット」(35.2

%) が第 2 位です。

なお、現在「ダイエット」をしている割合は、ウエストが太い人ほど、ヒップが大きい人ほど高くなっていますが、体型別では、既に効果が表われているのでしょうか、体型が“スマート”な人が最も高率（32.3%）です。

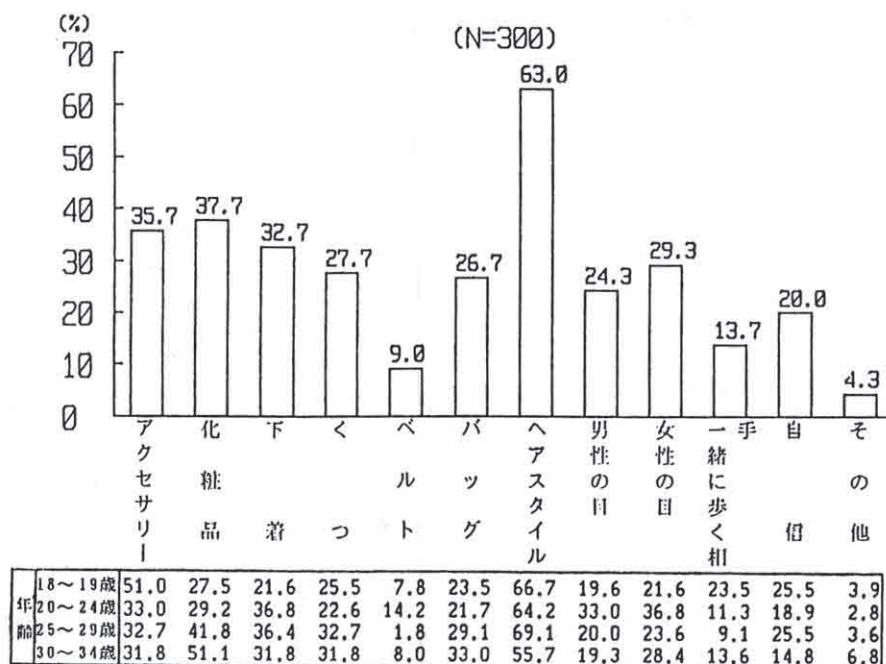


13. 自分のおしゃれにとって、特に効果があるもの

第一に「ヘアスタイル」(63.0%)。それに「化粧品」(37.7%)、「アクセサリ」(35.7%)、「下着」(32.7%)

－「男性の目」(24.3%)より「女性の目」(29.3%)－

<図-14> おしゃれに効果があるもの(複数回答)



自分のおしゃれにとって、服以外で特に効果があるものをあげてもらったところ、「ヘアスタイル」という人が63.0%と最も多くなっています。以下差がありますが、3人に1人前後が「化粧品」(37.7%)、「アクセサリ」(35.7%)、「下着」(32.7%)を、4人に1人前後が「女性の目」(29.3%)、「くつ」(27.7%)、「バッグ」(26.7%)、「男性の目」(24.3%)をあげています。女性にとっては異性の目より同性の目の方がわずかですが上回っているのは興味ある結果です。但し、恋人・ボーイフレンドがいる人では「男性の目」が31.4%、「女性の目」が28.8%と、わずかですが男性の目の方が高くなっています。(ちなみに、後述する男性編では、「女性の目」が24.7%、対して「男性の目」は8.0%です。)

年齢別にみても、いずれも「ヘアスタイル」が半数以上の割合となっていますが、10代、20代の65%前後に比べて30代前半(55.7%)の割合がやや低くなっています。年齢が上になると「化粧品」の割合が高く、30代前半では51.1%と「ヘアスタイル」と同程度です。なお、10代では「アクセサリ」(51.0%)が高くなっているのが目につきます。

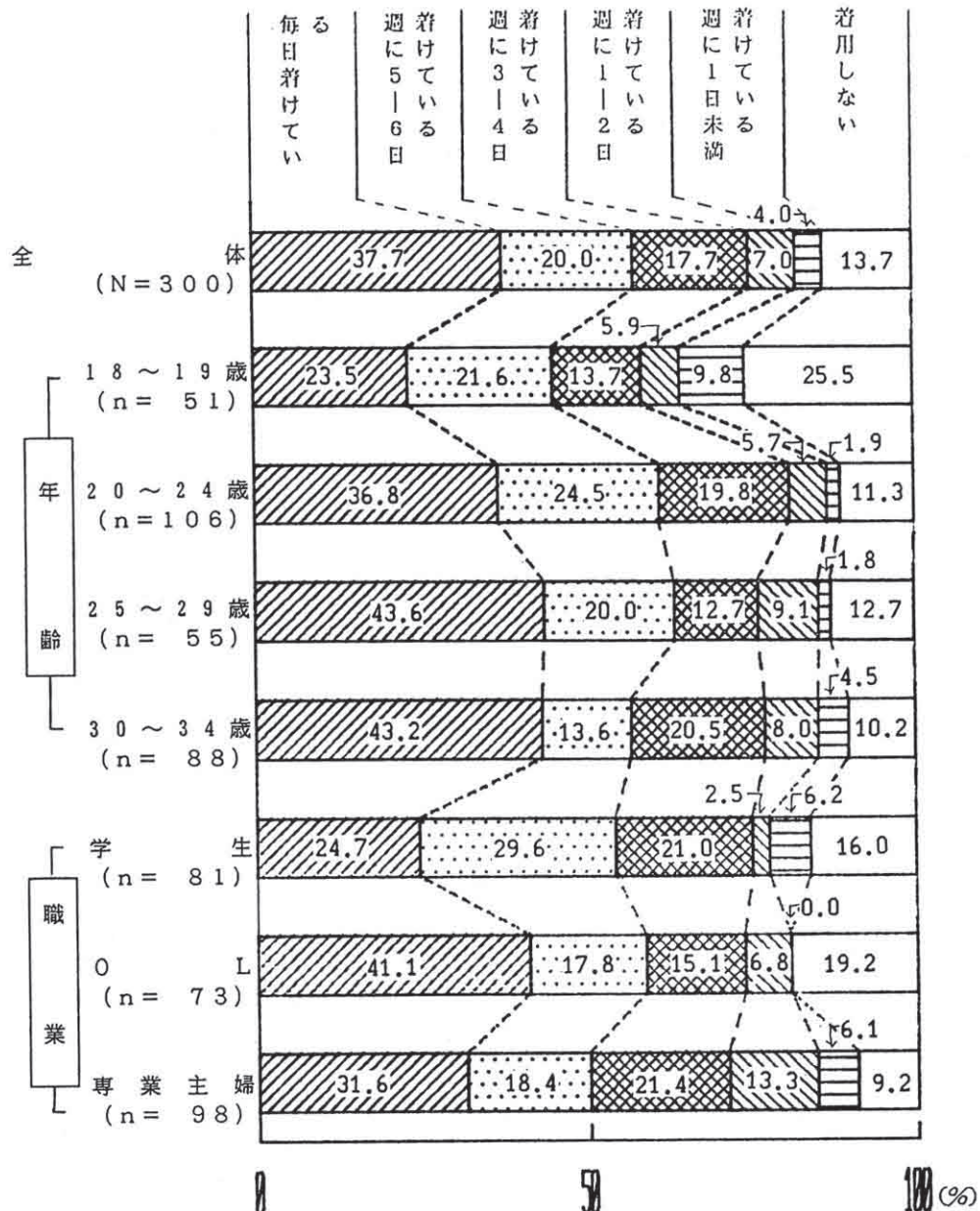
## II. ガードルの着用状況

### 1. ガードルの着用程度

- ・毎日着けている-----37.7%    ・週に2日以下だが着けている----11.0%
- ・週に3～6日着けている----37.7%    ・着用しない-----13.7%

—年齢が上になるほど「毎日」の割合が高く、10代の4人に1人は「着用しない」—

<図-15>ガードルの着用程度



まず、ガードルの着用程度をみると、「毎日着けている」という人が37.7%、毎日着用していても、「週に5～6日着けている」(20.0%)、「週に3～4日着けている」(17.7%)など少なくとも一週間の半分以上の日は着用している人が37.7%と同率います。また「週に1～2日、あるいは1日未満着けている」人が11.0%、「着用しない」



人も13.7%います。

ガードルを着用しない人は少数ですが、その理由としては、「着用すると苦しいので」（65.9%）、「暑苦しい、むれるので」（39.0%）、「面倒なので」（26.8%）な主になっています。

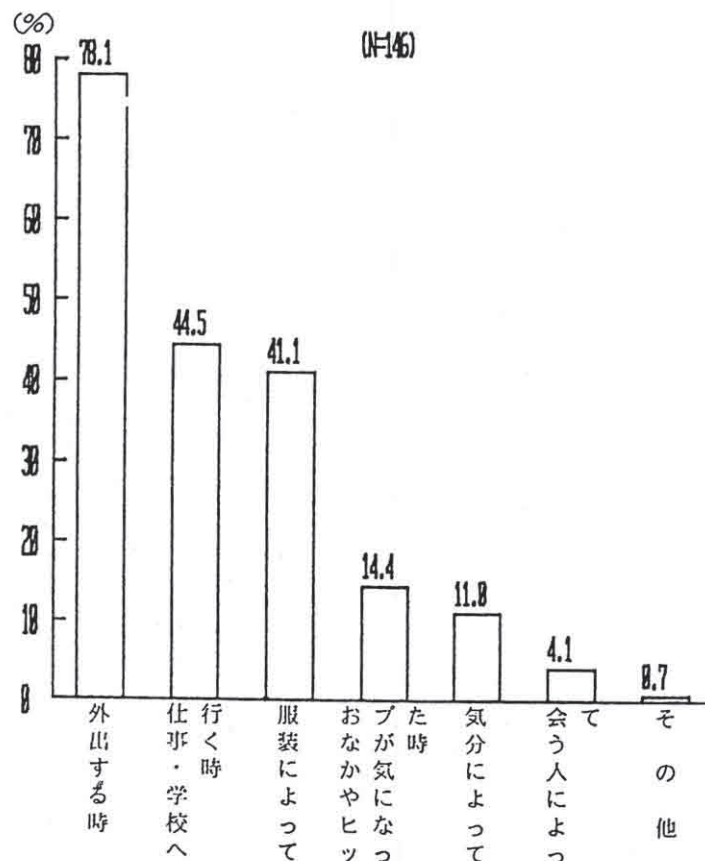
着用程度を年齢別にみると、年齢が上の人ほど「毎日着けている」割合が高く、20代後半や30代前半では4割強を示しています。また、「週に3～6日」と週の半分以上着用している割合は20代前半（44.3%）が最も高率、「着用しない」割合は10代（25.5%）が最も高率で4人に1人の割合となっています。

職業別にみると、「毎日着けている」割合はOL（41.1%）が最も高く、次いで専業主婦（31.6%）、学生（24.7%）の順です。学生の半数（50.6%）は「週に3～6日着けている」程度です。また、OLは「着用しない」割合（19.2%）も他層に比べて多くなっています。

体型別にみると、体型が“ふつう”、“スマート”、“やせ気味”の人では「毎日着けている」割合が4割前後ですが、“太り気味”の人では2割強（21.7%）とほぼ半減しています。しかし、“太り気味”の人は「着用しない」割合（4.3%）が最も低率になっています。

また、ウエストが太い人ほど、ヒップが大きい人ほど「毎日着けている」割合が高くなっています。

<図-16>ガードルを着用する時（N=毎日着けていない着用者）（複数回答）



ガードルを毎日ではないが着用している人に、ガードルを着用する時はどんな時か聞いてみたところ、「外出する時」という人が78.1%と圧倒的に多く、そのほかでは「仕事・学校へ行く時」(44.5%)、「服装によって」(41.1%)が多くなっていますが、「おなかやヒップが気になった時」(14.4%)、「気分によって」(11.0%)、「会う人によって」(4.1%)という人もいます。

年齢別にみても、いずれも「外出する時」が6割以上を占めていますが、若い人ほど「服装によって」という割合が高く、10代では半数強(53.8%)を占めているのが目につきます。



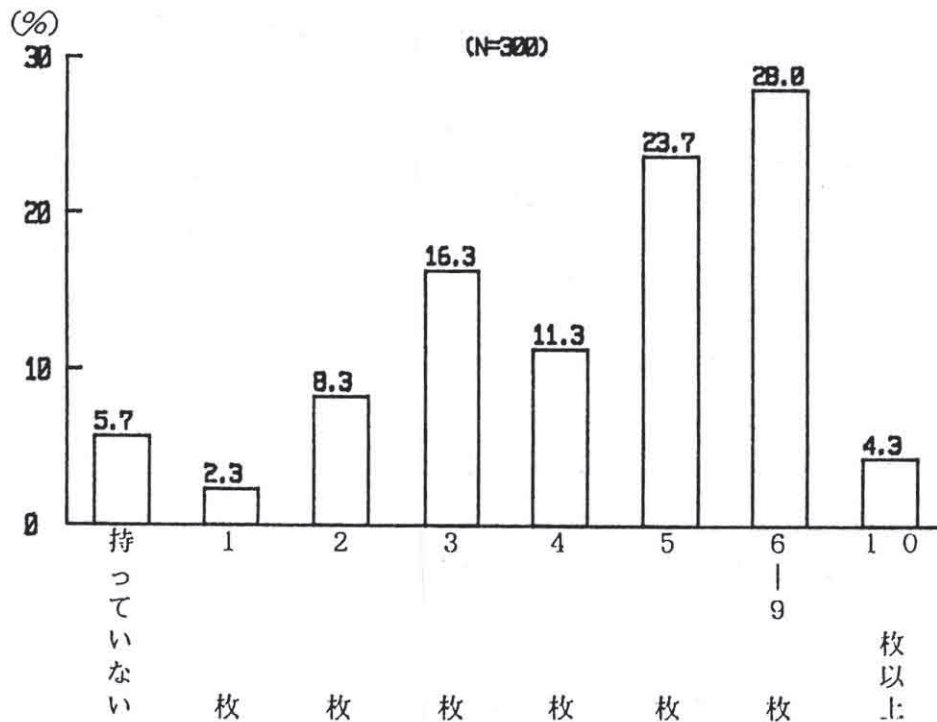
## 2. ガードルの所有状況

ガードルの所有枚数は平均4.7枚。

タイプは「ショート」(97.5%)が主流で、色は「ベージュ」(90.5%)と「ピンク」(61.1%)

ここでは、ガードルの所有枚数、タイプ、色など所有状況についてみてみます。

<図-17>ガードルの所有枚数



まず、ガードルの所有枚数をみると、「6~9枚」という人が28.0%と最も多く、以下「5枚」(23.7%)、「3枚」(16.3%)、「4枚」(11.3%)が続き、平均は4.7枚です。また、「持っていない」という人も少数(5.7%)います。

年齢別に平均枚数をみると、10代が3.6枚、20代前半になると4.8枚、20代後半が最も多く5.3枚、30代前半は4.7枚です。

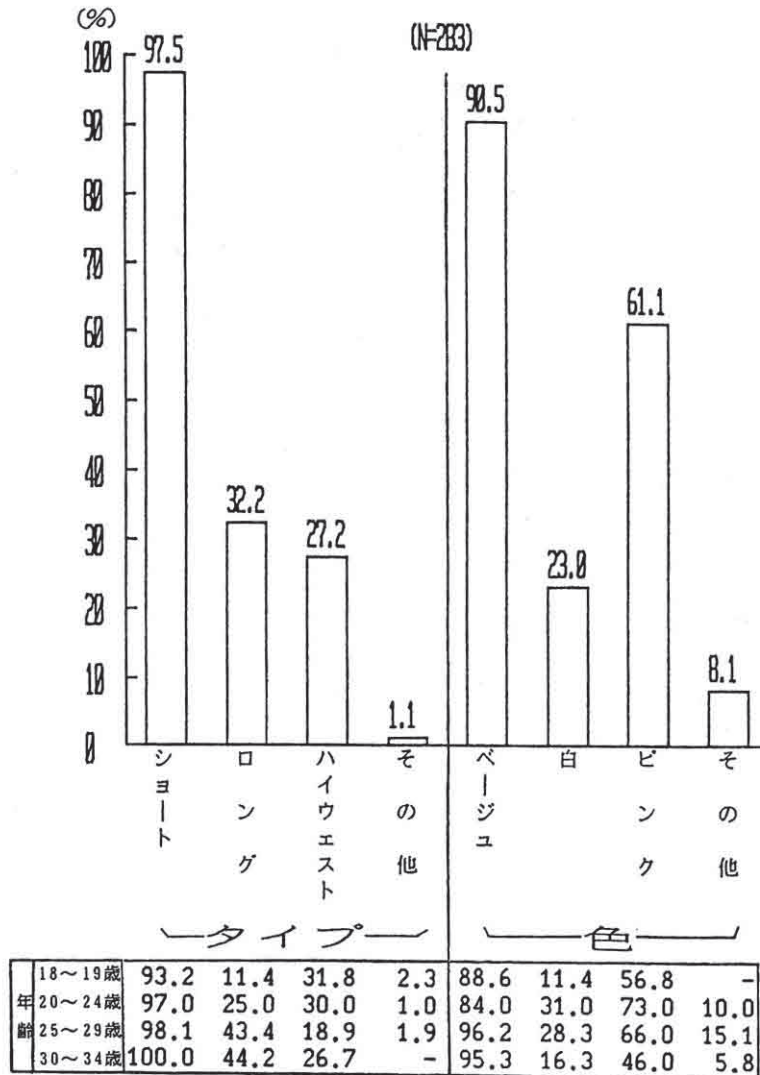
また職業別では、OL(平均4.9枚)と専業主婦(同4.8枚)は同程度で、学生(同4.0枚)の所有枚数がやや少なくなっています。

体型別では、体型がやせ気味の人ほど平均枚数が多くなっています。

<表-2>ガードルの所有枚数（平均：枚）

全体	年齢				職業			体型			
	10代	20代前半	20代後半	30代前半	学生	OL	専業主婦	太り気味	ふつう	スマート	やせ気味
4.7	3.6	4.8	5.3	4.7	4.0	4.9	4.8	4.1	4.2	4.3	5.8

<図-18>ガードルの所有タイプと色（複数回答）



次に、所有しているガードルのタイプをみると、「ショート」は97.5%と大半が所有しており、「ロング」（32.2%）、「ハイウエスト」（27.2%）は3割前後です。

年齢別にみても、「ショート」はいずれの層でも大半の人が所有していますが、「ロング」は若い10代では1割強（11.4%）にすぎませんが、年齢とともその所有率がアップし、20代後半（43.4%）、30代前半（44.2%）では4割強を示しています。「ハイウエスト」はどちらかというと若い人の所有率が高くなっています。

職業別にみても、「ショート」が主流であることは変わりませんが、「ロング」の所有率はOL（32.4%）や専業主婦（43.8%）に比べて、学生（15.1%）は半数弱です。

また、体型別にみると、体型がスマート、やせ気味の人ほど「ロング」、「ハイウエスト」タイプの所有率が高くなっています。

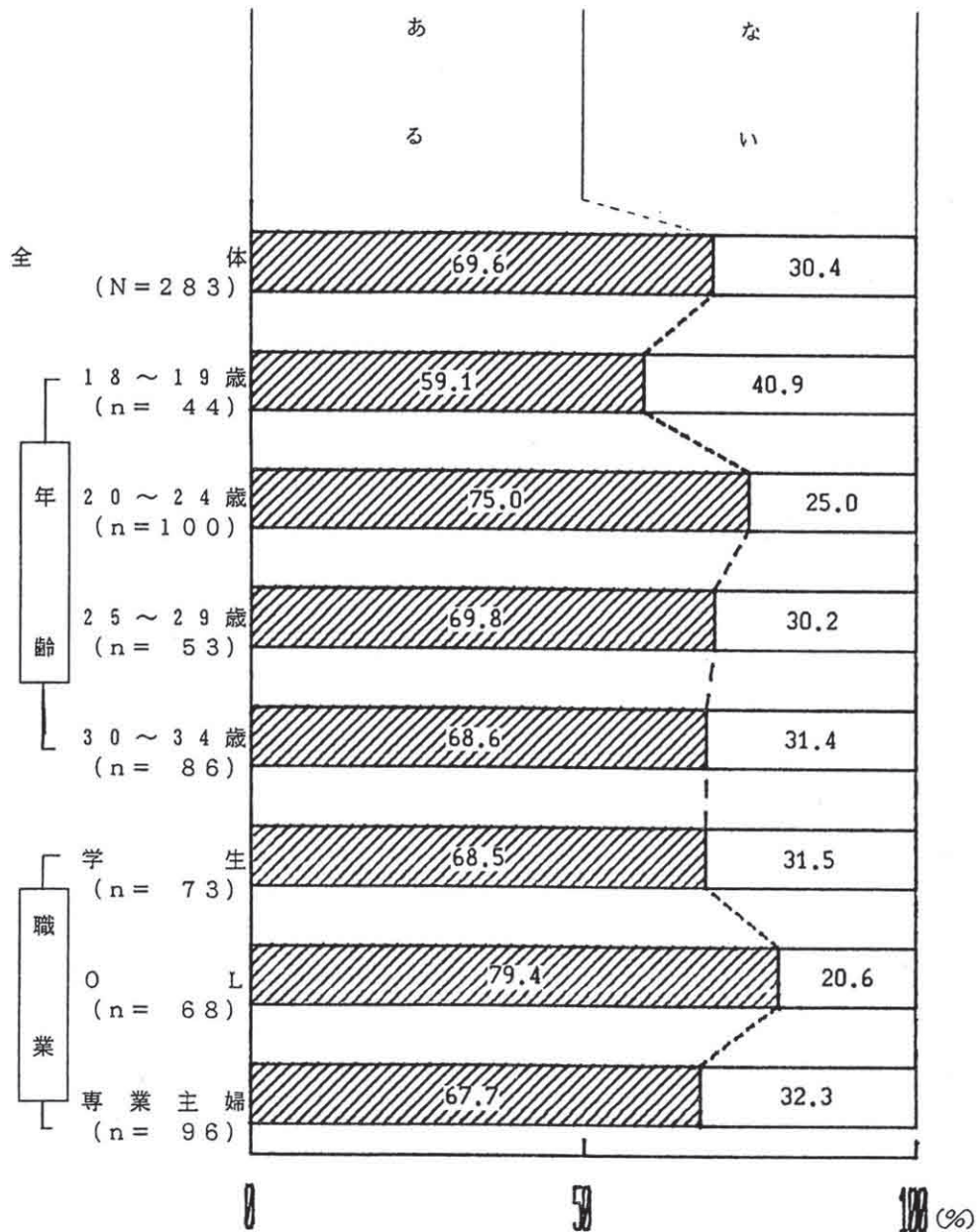
所有ガードルの色をみると、「ベージュ」が90.5%と大半を占め、次いで「ピンク」が61.1%で続き、「白」は2割強（23.0%）です。

年齢別にみても、いずれも「ベージュ」は高率を示しています。「ピンク」や「白」は20代前半がピークで、以降年齢とともに所有率は下がってきます。

### 3. ガードルの使い分け

10人中7人(69.6%)が、ガードルを使い分けることが「ある」。使い分けるのは「服装の種類によって」(82.7%)など

<図-19>ガードルを使い分けること



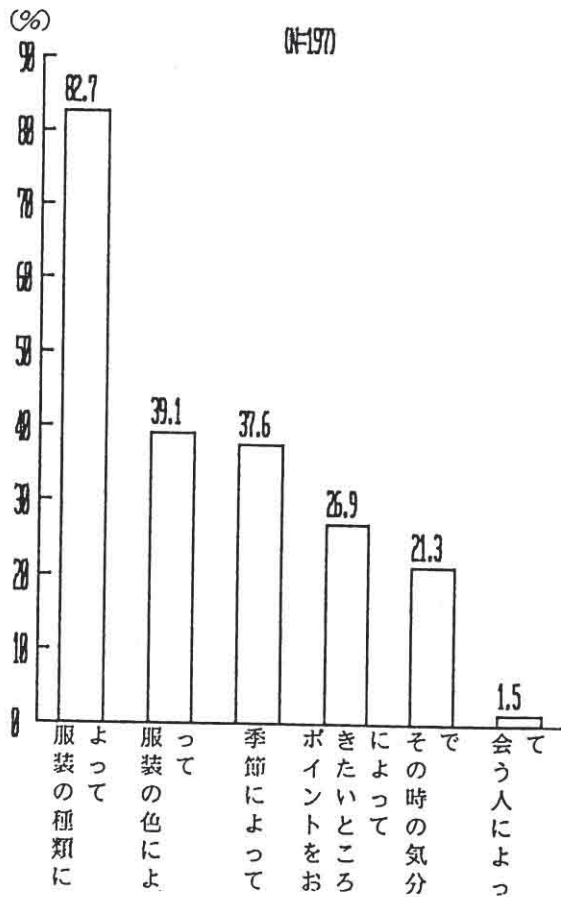
ガードルの所有者に、ガードルを使い分けることがあるか聞いてみたところ、「ある」という人が7割(69.6%)を占めています。

年齢別にみても、いずれも「ある」が過半数を占めていますが、その割合は20代前半(75.0%)がピークになっています。

また、職業別では、OL(79.4%)が最も高率です。



<図-20>ガードルを使い分ける時（複数回答）



では、どんな時にガードルの使い分けをしているのでしょうか。

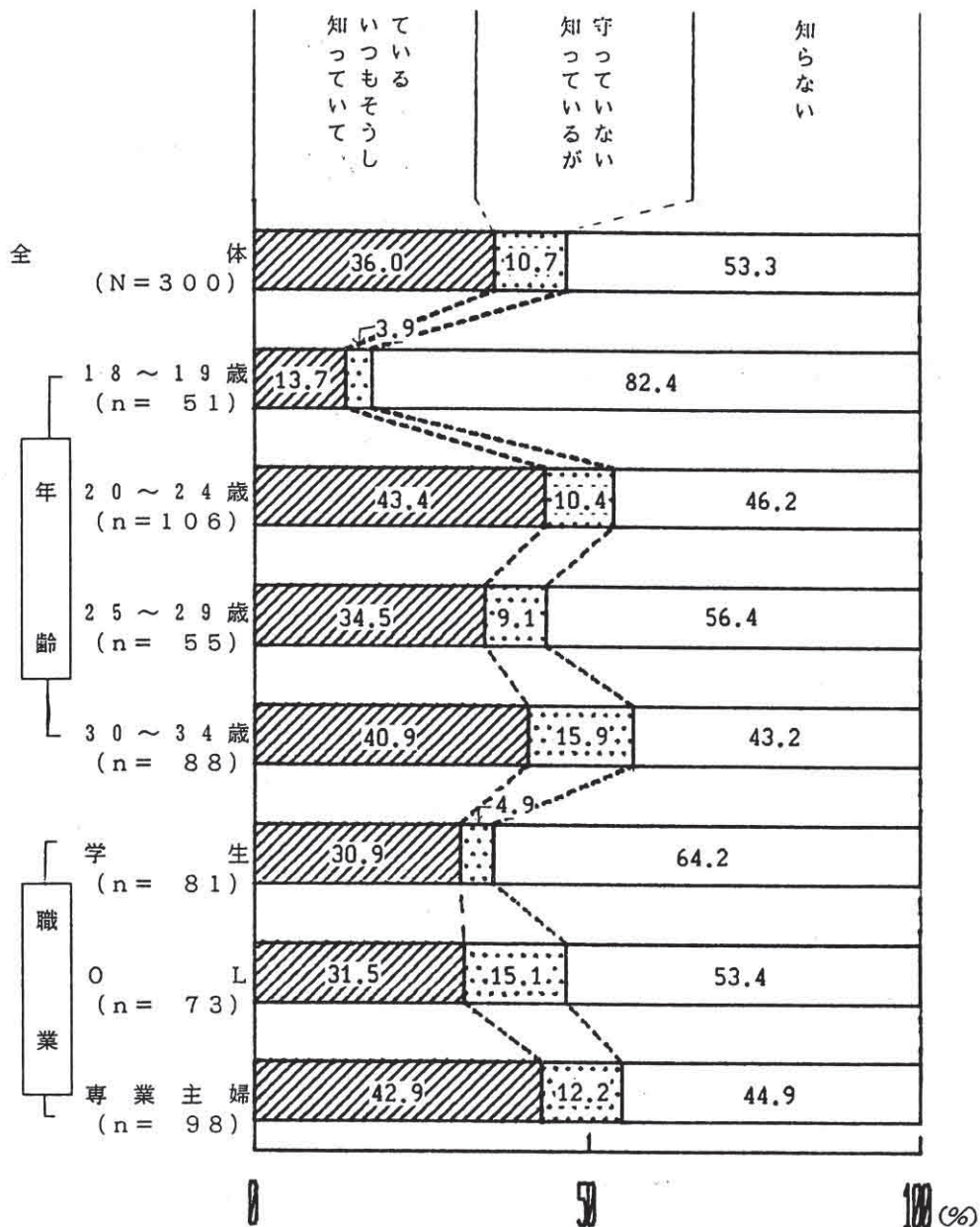
「服装の種類によって」が82.7%と圧倒的に多く、そのほかでは「服装の色によって」（39.1%）、「季節によって」（37.6%）、「ピップやおなか、ウエストなどポイントをおきたいところによって」（26.9%）、「その時の気分で」（21.3%）などに使い分けています。

#### 4. ガードルの正しい着用の仕方

3人に1人強（36.0%）は「知っている、いつもそうしている」が、半数強（53.3%）が「知らない」

－ 10代の8割強、学生の6割強が「知らない」－

<図-21>ガードルの正しい着用の仕方の認知



ガードルの正しい着用の仕方を知っているか聞いてみたところ、「知っている、いつもそうしている」という人が36.0%と3人に1人強の割合いますが、「知っているが守っていない」が1割（10.7%）、さらに「知らない」という人が半数強（53.3%）を占めています。

年齢別にみると、10代では「知っている、いつもそうしている」割合が1割強（13.7

%)と他の層の3割台～4割強に比べて極端に低率で、8割強(82.4%)が「知らない」と答えています。

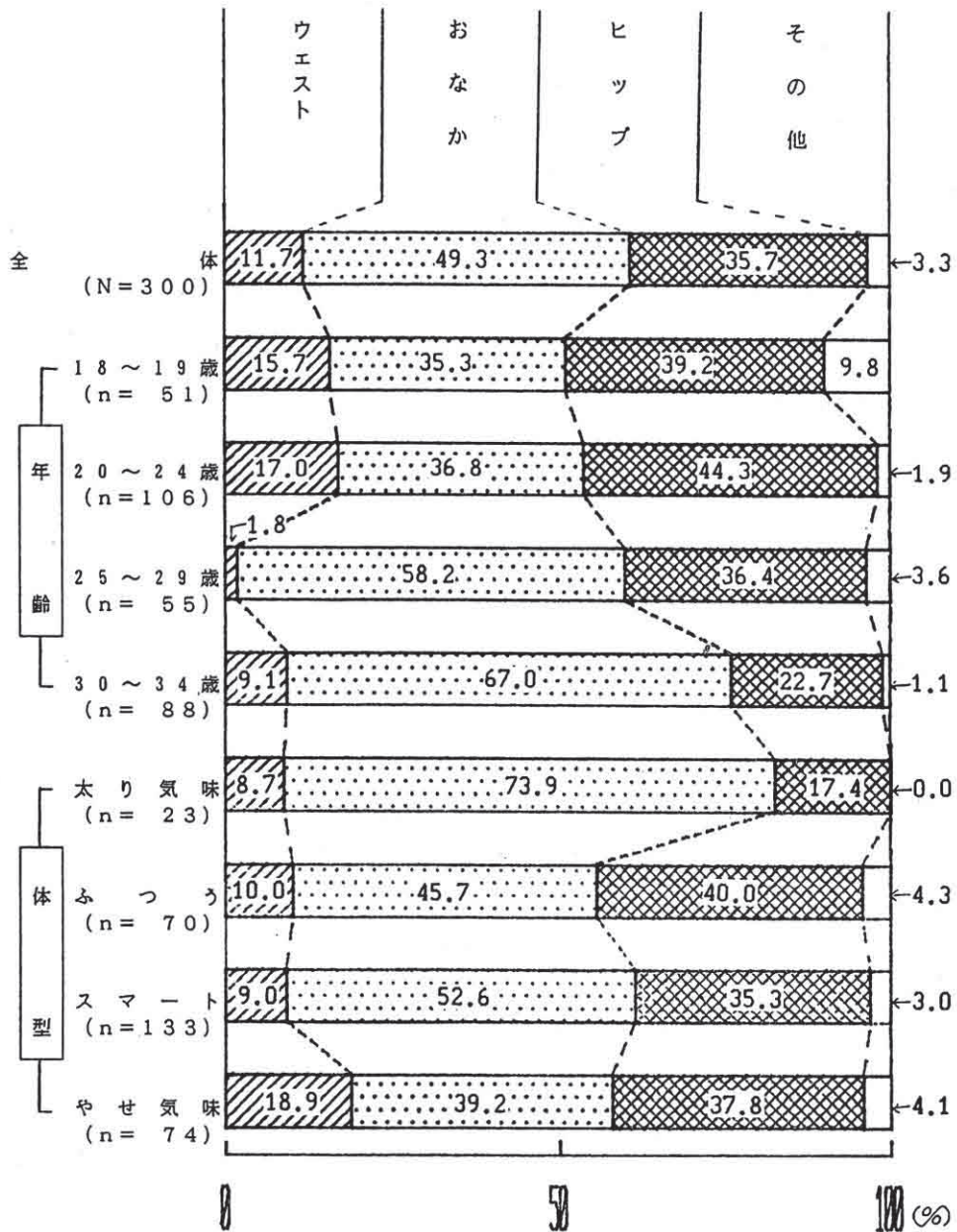
職業別にみると、「知っていて、いつもそうしている」割合は学生やOLで3割、専業主婦で4割強(42.9%)となっています。学生ではほぼ3人に2人(64.2%)が「知らない」と答えています。

また、ガードルの着用程度別にみると、“毎日”あるいは“週に3～6日”着用している人では4割台が「知っていて、いつもそうしている」と答えているのに対し、“週に2日以下”着用している人では1割強(12.1%)で、「知らない」という人が6割強(63.6%)を占めています。

5. ガードルがよく効く部分

「おなか」(49.3%)、「ヒップ」(35.7%)、「ウエスト」(11.7%)の順

<図-22>ガードルがよく効く部分



ガードルがよく効く部分はどこか、1つだけあげてもらったところ、「おなか」という人が49.3%と最も多く、次いで「ヒップ」が35.7%、「ウエスト」は11.7%です。

年齢別にみると、年齢が上の人ほど「おなか」を、若い人ほど「ヒップ」をあげる割合が高い傾向がうかがえ、10代、20代前半では「ヒップ」(前者が39.2%、後者が44.3%)、20代後半、30代前半では「おなか」(前者が58.2%、後者が67.0%)がそれぞれトップです。10代や20代前半では「ウエスト」も2割近く、それ以上の年齢層とはかなり差がみられます。



体型別でみると、体型が“太り気味”の人では7割強（73.9%）が「おなか」をあげていますが、そのほかの体型では「おなか」と「ヒップ」に分れています。“やせ気味”の人では「ウエスト」を18.9%があげています。また、ウエストが太い人ほど、ヒップが大きい人ほど「おなか」の割合が高く、「ヒップ」の割合が低くなっています。

## 調査結果の内容【男性編】

### 1. まわりの人をみて、一般的に姿勢は良いか

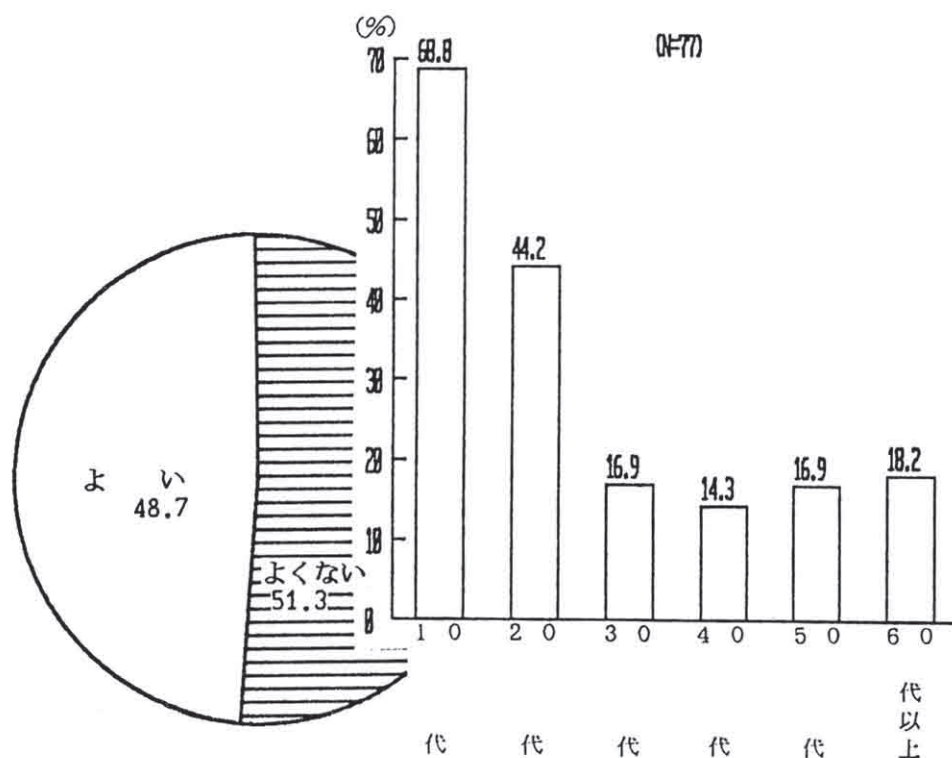
男性については51.3%、女性は45.3%が姿勢が「よくない」

—特に姿勢がよくない年代は男女とも「10代」と「20代」—

ここでは、まわりの人をみていて、一般的に姿勢が良いと思うか、男性と女性のそれぞれについて聞いてみました。

#### ① まわりの男性の姿勢

<図-1> まわりの男性の姿勢と姿勢がよくない年代

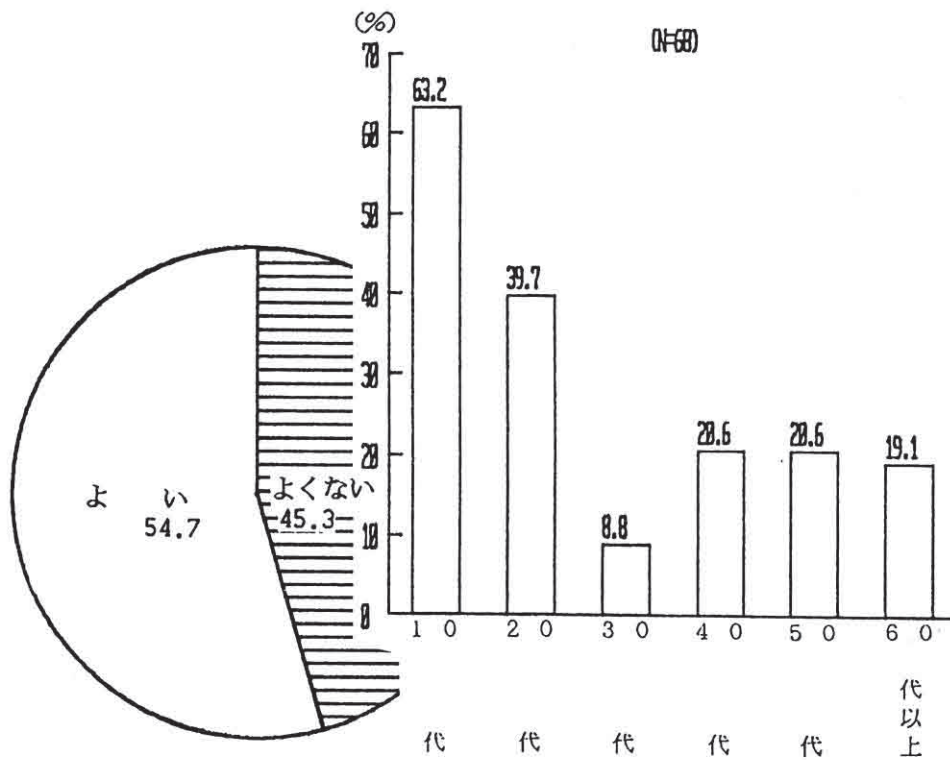


まず、まわりの男性の姿勢についてみると、「よい」という人が48.7%、「よくない」という人が51.3%とほぼ二分されています。

まわりの男性の姿勢がよくないという人に、特によくない年代をあげてもらったところ、「10代」という人が68.8%と最も多く、次いで「20代」が44.2%で続き、そのほかの年代はいずれも2割未満で、若い年代の姿勢がよくないとみています。

② まわりの女性の姿勢

<図-2> まわりの女性の姿勢と姿勢がよくない年代



次に、まわりの女性の姿勢についてみると、「よい」という人が54.7%と半数強、「よくない」という人が45.3%となっており、男性の姿勢より女性の姿勢の方が若干よいとみえています。

まわりの女性の姿勢がよくないという人に、特によくない年代をあげてもらったところ、男性に対する評価同様、「10代」という人が63.2%と最も多く、次いで「20代」が39.7%で続き、やはり若い10代、20代の姿勢がよくないとする人が多くなっています。そのほかでは「40代」、「50代」（各20.6%）、「60代以上」（19.1%）が2割程度を示しています。

## 2. 『しゃんとした女性』とは. . . ?

「スタイルのよい」（18名）、「知的な」（13名）人、たとえば「キャリアウーマン」のような女性（19名）

<表-1>しゃんとした女性（5名以上の回答）

しゃんとした女性	件数
キャリアウーマン	19
スタイルのよい人	18
知的な人	13
考え方のしっかりした人	11
身なりの整った人	10
姿勢よく歩く人	5
自分の意志をつらぬいている人	5
計画性のある生活を送れる人	5
清潔感のある人	5

『しゃんとした女性』というと、どんな女性を思い浮かべるか自由にあげてもらったところ、「キャリアウーマン」という人が19名と最も多く、次いで「スタイルのよい人」（18名）、「知的な人」（13名）、「考え方のしっかりした人」（11名）、「身なりの整った人」（10名）が続きベスト5となっています。

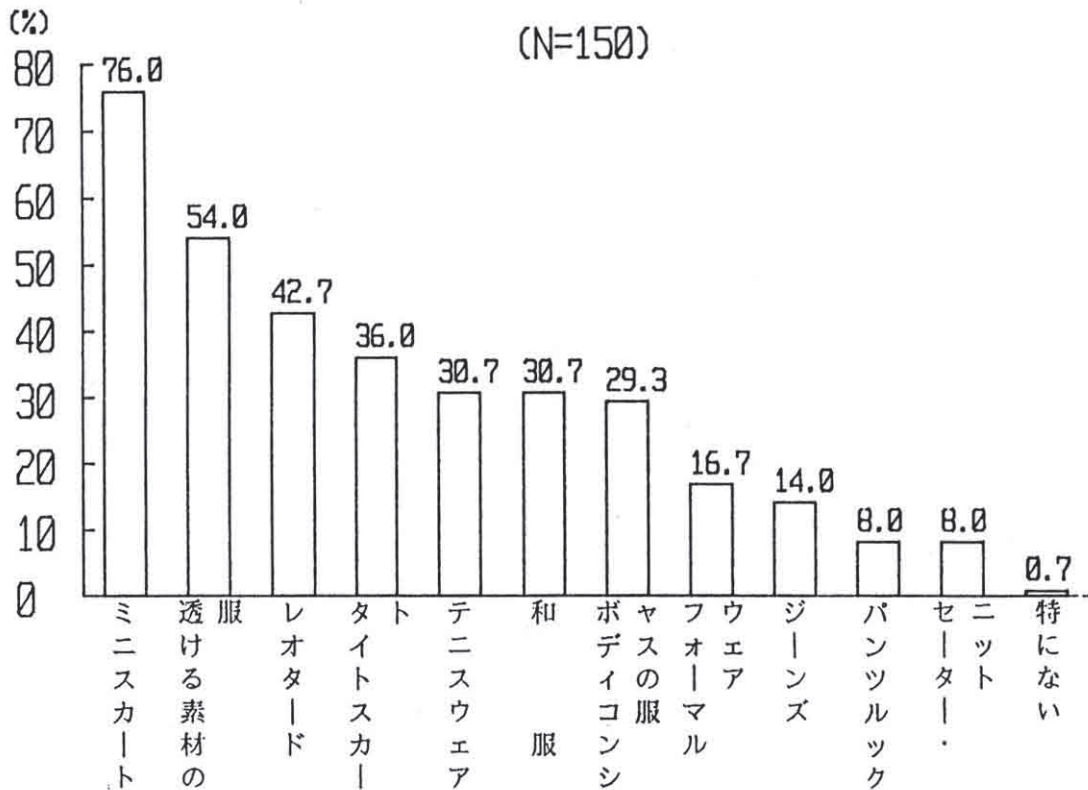
また、具体的な女性の名前としては、「吉永小百合」、「岡本綾子」（各2名）、「檀ふみ」、「浅野温子」、「黒柳徹子」などがあげられています。



### 3. つい目がいってしまう女性の服装

「ミニスカート」(76.0%)、「透ける素材の服」(54.0%)、「レオタード」(42.7%)がベスト3

<図-3> つい目がいってしまう女性の服装 (複数回答)



女性がどんな服装をしていると、つい目がいってしまうか聞いてみたところ、4人に3人(76.0%)が「ミニスカート」、半数強(54.0%)が「透ける素材の服」をあげています。以下「レオタード」(42.7%)、「タイトスカート」(36.0%)、「テニスウエア」、「和服」(各30.7%)、「ボディコンシャスの服」(29.3%)などが続いています。

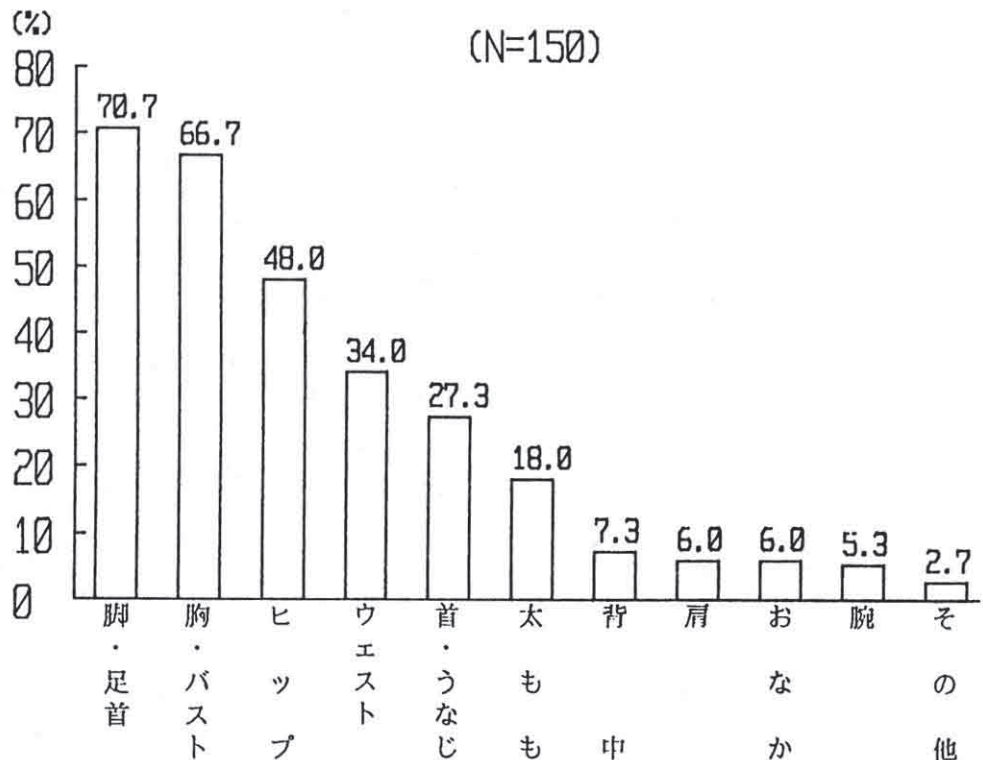
職業別でみると、学生、サラリーマンとも、第一に「ミニスカート」、次いで「透ける素材の服」があげられています。また、「レオタード」、「テニスウエア」、「ボディコンシャスの服」などはサラリーマンより学生の方がつい目がいってしまう割合が若干高くなっています。反対に、「和服」はサラリーマンの方が高くなっています。

#### 4. 女性のボディで特に気になるところ

「脚・足首」(70.7%)、「胸・バスト」(66.7%)、「ヒップ」(48.0%)  
がベスト3

—学生は「脚・足首」(73.8%)、サラリーマンは「胸・バスト」(74.0%)が  
トッパー

<図-4>女性のボディで気になるところ(複数回答)



では、女性のボディで特に気になるところはどこでしょうか。

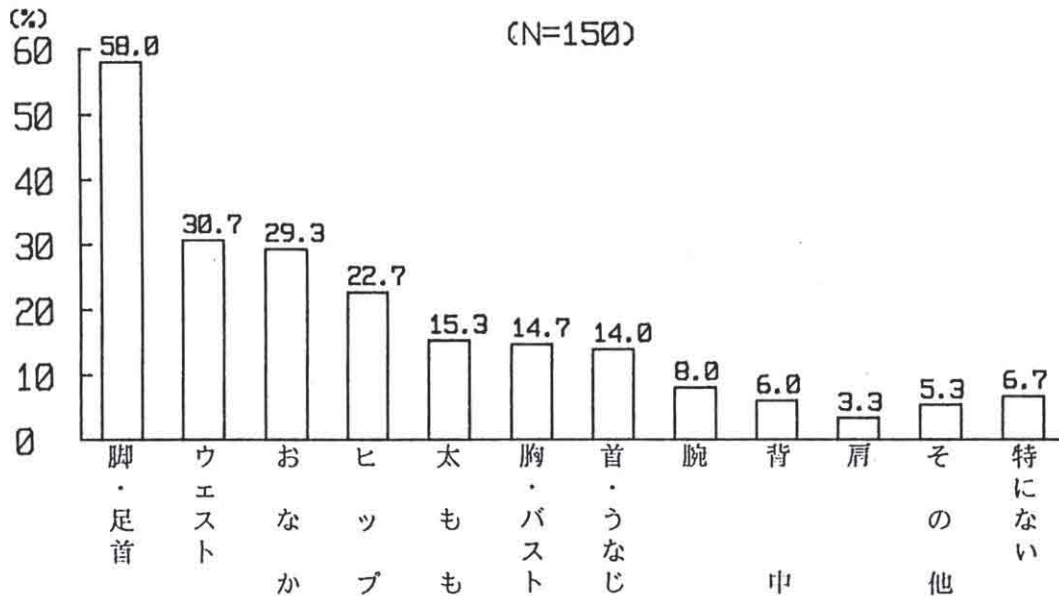
「脚・足首」という人が70.7%と最も多く、次いで「胸・バスト」が66.7%で続き、他の部分をやや引き離しています。そのほかでは「ヒップ」(48.0%)、「ウエスト」(34.0%)、「首・うなじ」(27.3%)などがあげられています。

職業別にみると、学生では「脚・足首」(73.8%)、サラリーマンでは「胸・バスト」(74.0%)がそれぞれトップですが、上位にあげられている項目は全体と同様です。

5. 女性のボディでもっと努力したり、手入れをして整えた方がよいと思うところ

まず第一に「脚・足首」(58.0%)。そして「ウエスト」(30.7%)、「おなか」(29.3%)、「ヒップ」(22.7%)など

<図-5>もっと努力したり、手入れをして整えた方がよいところ(複数回答)



それでは、男性は女性のボディについて、どこをもっと努力したり、手入れをして整えた方がよいと思っているのでしょうか。

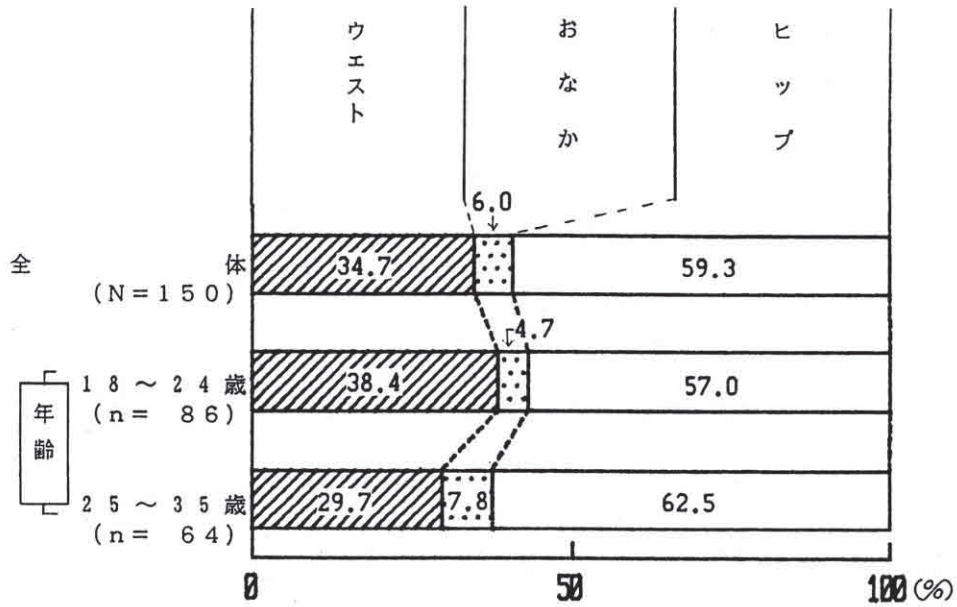
前項で注目度(?) 1位の「脚・足首」という人が58.0%と最も多く、以下「ウエスト」(30.7%)、「おなか」(29.3%)、「ヒップ」(22.7%)などが続いています。注目度第2位の「胸・バスト」(14.7%)は第6位にランクされています。

職業別でみると、学生では「脚・足首」(55.7%)、「ウエスト」(29.5%)、「ヒップ」(24.6%)が、サラリーマンでは「脚・足首」(65.8%)、「おなか」(35.6%)、「ウエスト」(27.4%)がそれぞれベスト3です。

6. 女性のウエスト、おなか、ヒップで、まず目がいくところ

まず「ヒップ」(59.3%)、次に「ウエスト」(34.7%)

<図-6>まず目がいくところ



女性のウエスト、おなか、ヒップのうち、まず目がいくところはどこか聞いてみたところ、「ヒップ」という人が59.3%と最も多く、次いで「ウエスト」が34.7%で続き、「おなか」をあげる人は少数(6.0%)です。

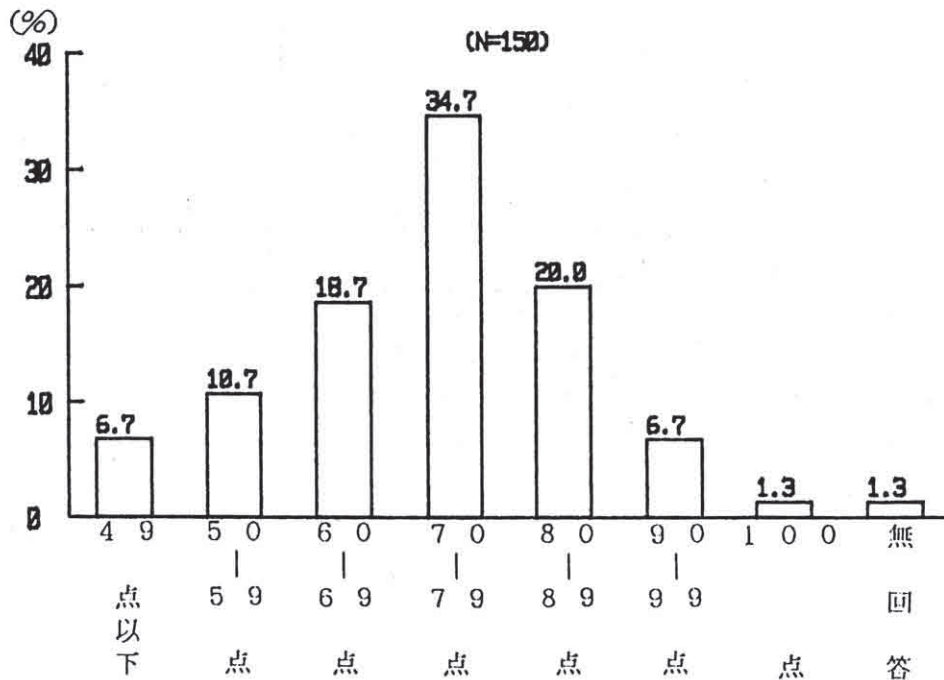
年齢別でみると、いずれも「ヒップ」がトップですが、年齢が上の人の方が「ヒップ」を、若い人では「ウエスト」をあげる割合が高くなっています。



## 7. 日本の若い女性のボディの採点

3人に1人(34.7%)が「70～79点」、平均は68.0点

<図-7>若い女性のボディ(100点満点)



日本の若い女性のボディを100点満点で採点してもらったところ、「70～79点」という人が34.7%と最も多く、以下「80～89点」(20.0%)、「60～69点」(18.7%)が2割程度で続いています。また、「49点以下」の低い採点をする人も少数(6.7%)、「100点満点」を与えた人は2名(1.3%)です。

平均は68.0点です。

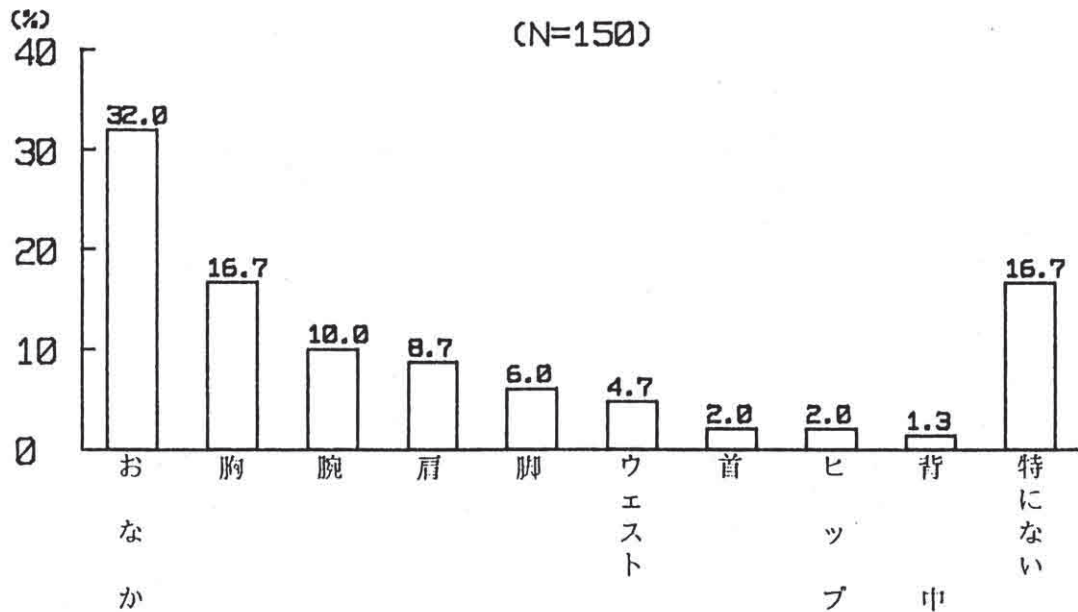
年齢別に平均をみると、年齢が上の人の方が高く、18～24歳が66.9点、25～34歳が69.5点となっています。

また、職業別では、学生が66.4点、サラリーマンが68.2点となっています。

## 8. 自分のボディで一番気になるところ

第一に「おなか」(32.0%)、そして「胸」(16.7%)、「腕」(10.0%)

<図-8>自分のボディで一番気になるところ



自分のボディで一番気になるところはどこか聞いてみたところ、「おなか」という人が32.0%と最も多く、以下「胸」(16.7%)、「腕」(10.0%)、「肩」(8.7%)、「脚」(6.0%)などが続いています。また、「特にない」という人も16.7%います。

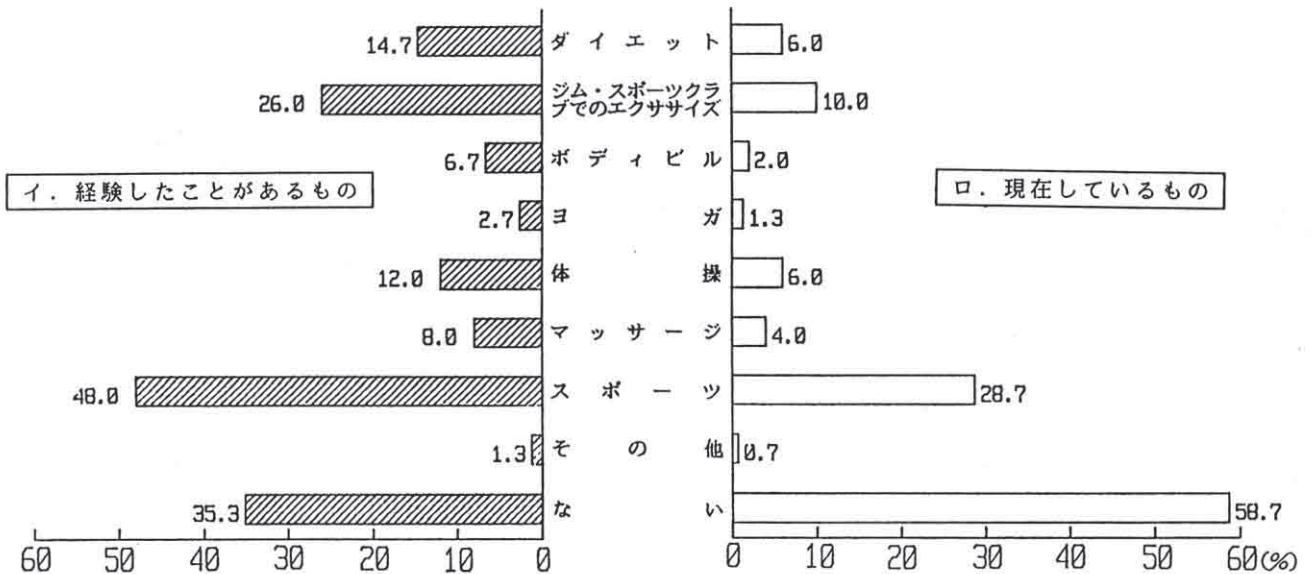
年齢別にみても、いずれも「おなか」がトップですが、その割合は年齢が上の人ほど高く、25～35歳では4割(40.6%)を占めています。

なお、体型別にみると、サンプルは少数ですが“肥満型”の人では「おなか」をあげる人が4分の3(75.0%)を占めています。

## 9. 自分のボディのためにしていること

これまでに自分のボディのために「スポーツ」（48.0%）、「ジム・スポーツクラブでのエクササイズ」（26.0%）... などをしてきた  
 現在は5人に2人（41.3%）が「スポーツ」（28.7%）などをしている

<図-9>ボディのためにしていること（複数回答）



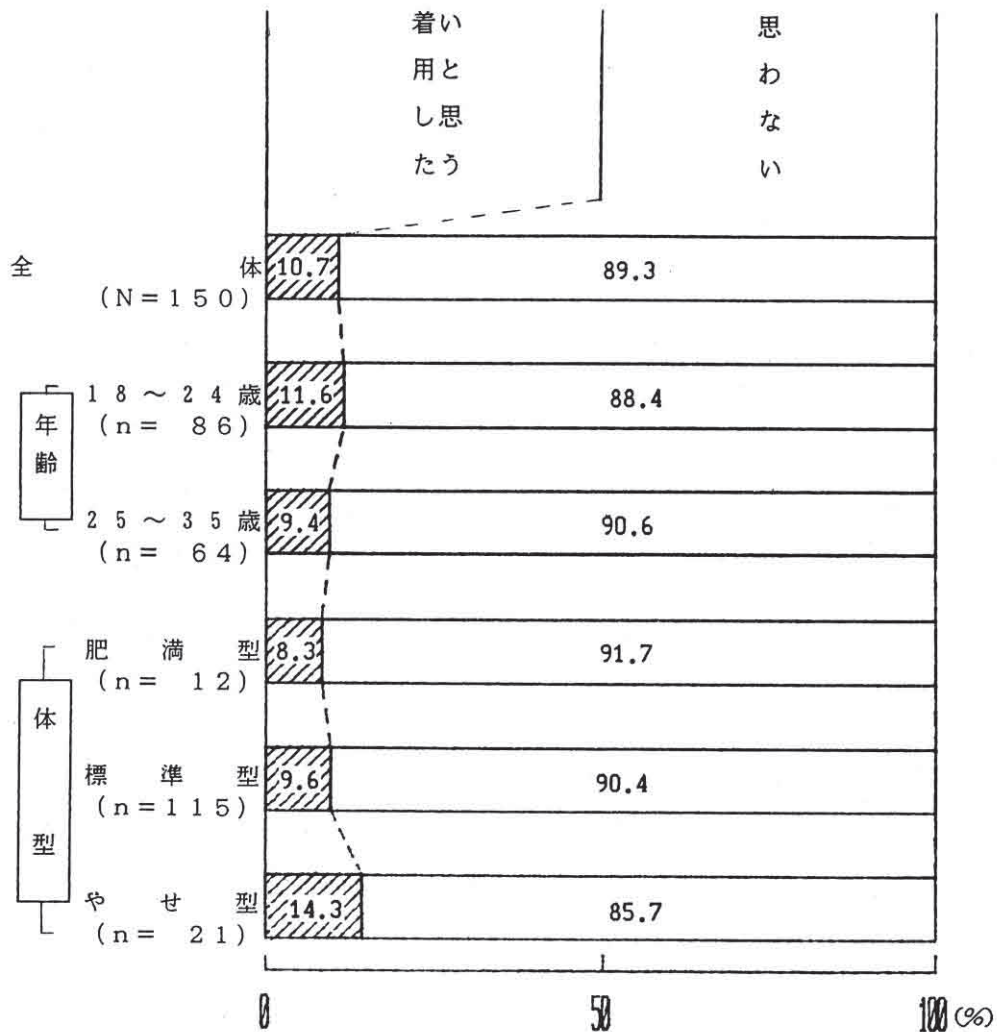
まず、自分のボディのためにこれまで経験したことをみると、「スポーツ」が48.0%と最も多く、以下「ジム・スポーツクラブでのエクササイズ」（26.0%）、「ダイエット」（14.7%）、「体操」（12.0%）、「マッサージ」（8.0%）などが続いています。しかし、「ない」という人が35.3%と3人に1人強います。

次に、自分のボディのために現在していることをみると、やはり「スポーツ」をしている人が28.7%と最も多くなっていますが、そのほかでは「ジム・スポーツクラブでのエクササイズ」（10.0%）ぐらいで、5人に3人（58.7%）は「ない」と答えています。

10. ヒップアップさせる、あるいはおなかを押さえるガードルのような下着の着用意向

10人に1人(10.7%)が「ある」-学生 8.2%、サラリーマン 13.7%-

<図-10>ガードルのような下着の着用意向



ヒップアップさせる、あるいはおなかを押さえるガードルのような下着があったら着用したいと思うか聞いてみたところ、「ある」が10.7%と、10人中1人が着用意向を持っています。

年齢別に着用意向をみると、18~24歳が11.6%、25~35歳が9.4%、職業別では学生が8.2%、サラリーマンが13.7%となっています。

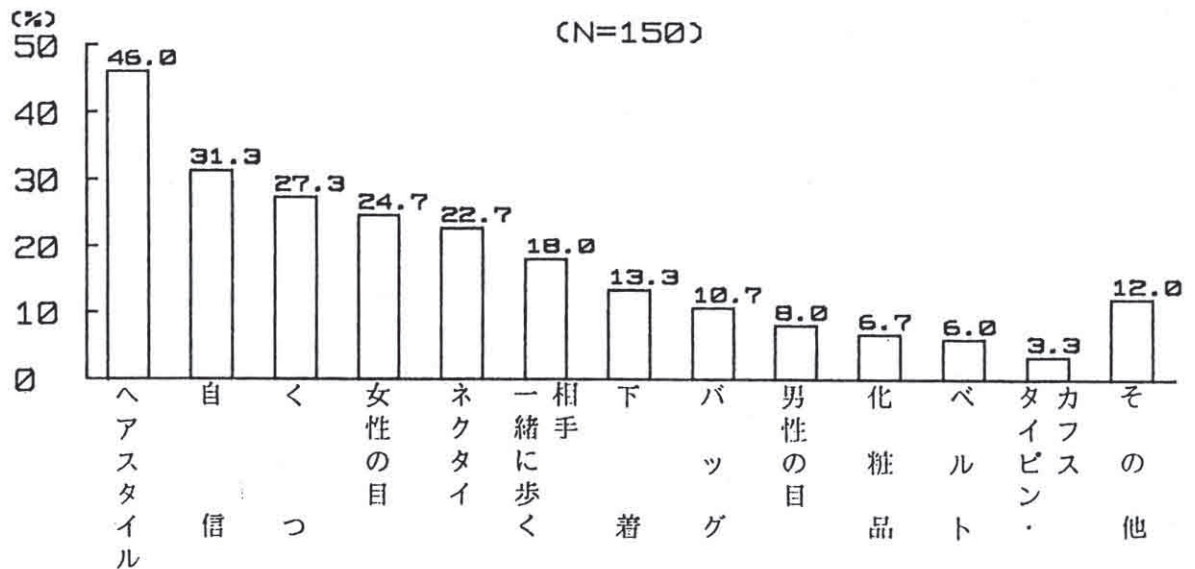
また、体型別にみると、体型がやせている人ほど着用意向が高く、“やせ型”の人で14.3%となっています。



11. 自分のおしゃれにとって、特に効果があるもの

「ヘアスタイル」(46.0%)、「自信」(31.3%)、「くつ」(27.3%)がベスト3

<図-11>おしゃれに特に効果があるもの(複数回答)



自分のおしゃれにとって、特に効果があるものは何か服以外について聞いてみたところ、「ヘアスタイル」という人が46.0%と最も多く、以下「自信」(31.3%)、「くつ」(27.3%)、「女性の目」(24.7%)、「ネクタイ」(22.7%)、「一緒に歩く相手」(18.0%)などが続いています。なお、「男性の目」(8.0%)は「女性の目」の3分の1と低率です。

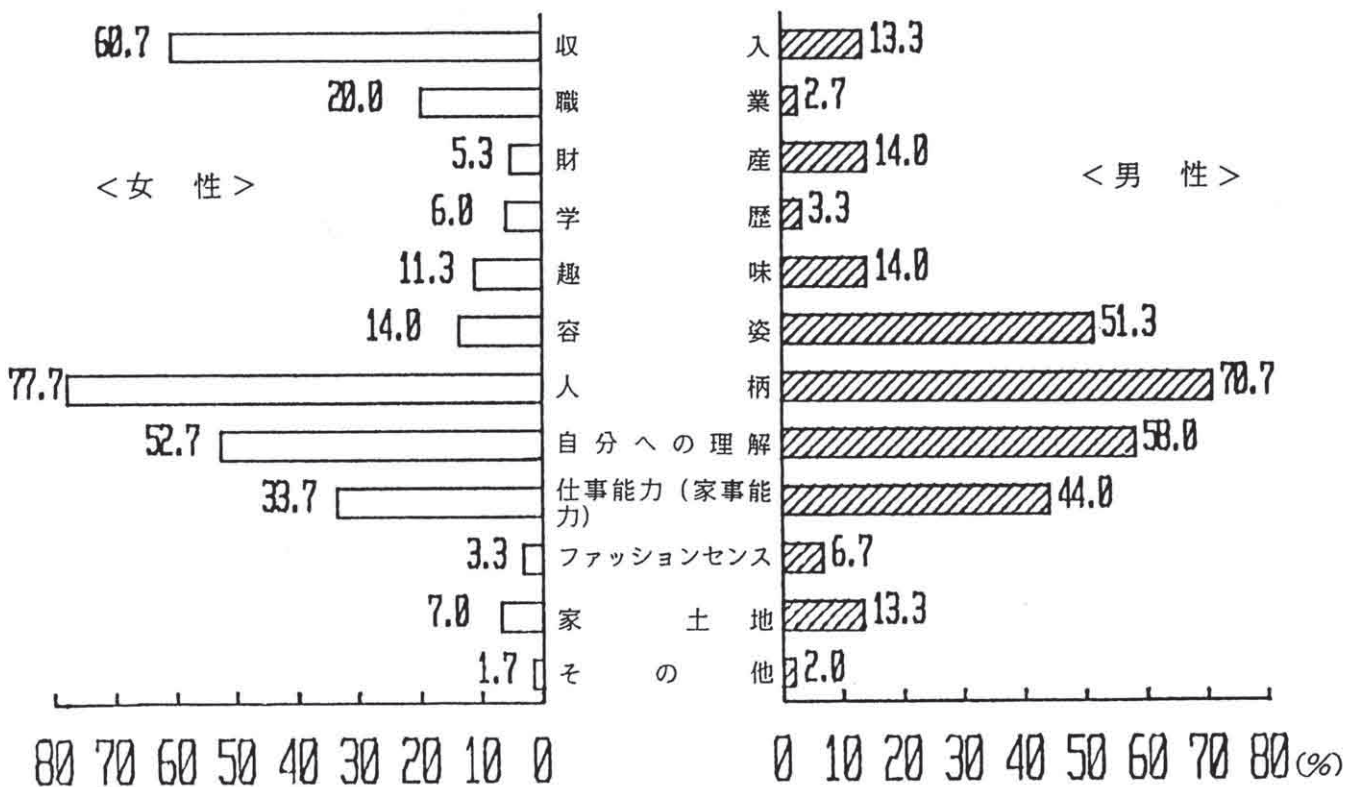
職業別にみると、学生では「ヘアスタイル」(47.5%)、「自信」(27.9%)、「女性の目」(23.0%)が、サラリーマンでは「ヘアスタイル」(43.8%)、「くつ」(37.0%)、「ネクタイ」(32.9%)がそれぞれベスト3です。

## 調査結果の内容【よく効くあれこれ】

### 1. よく効く結婚の条件

女性によく効く、「人柄」(77.7%)、「収入」(60.7%)、「自分への理解」(52.7%)  
 男性に効くのは、「人柄」(70.7%)、「自分への理解」(58.0%)、「容姿」(51.3%)

<図-23>結婚相手の条件(回答は3つまで)



結婚相手の条件として、「これがあれば!」というものをあげてもらくと、<女性>が望む男性の条件は、第一が「人柄」(77.7%)、次いで「収入」(60.7%)、そして「自分への理解」(52.7%)がベスト3です。以下「仕事の能力」(33.7%)、「職業」(20.0%)、「容姿」(14.0%)などで、どちらかといえば名より実をとるといった傾向がうかがえ、お金と理解があって、自分を自由にさせてくれる男性を望んでいるようです。

20代後半や30代前半は「収入」や「職業」を重視する傾向が強くなりますが、反対に若い人ほど「自分への理解」が高くなっています。

職業別でも、いずれもトップは同じですが、学生は続いて「自分への理解」(67.9%)、OLと専業主婦は「収入」で、特に後者(73.5%)では高率です。

<男性>が女性に望む条件の方は、「人柄」（70.7%）、「自分への理解」（58.0%）、「容姿」（51.3%）がベスト3で、「容姿」以外は女性と共通しています。

「収入」（13.3%）、「職業」（2.7%）と本人の経済力を求める人は多くありませんが、「財産」（14.0%）、「家・土地」（13.3%）は女性が男性に求めるケースよりも多く、“逆玉の輿の時代”をうかがわせています。

18～24歳の若い層は「容姿」（58.1%）、「財産」（18.6%）、「家・土地」（18.6%）、「収入」（15.1%）をあげる割合がそれ以上の年代よりも多くなっています。

## 2. よく効くデートファッション

女性自身は彼が喜ぶデートファッションとしては「ミニスカート」、「ワンピース」、「ジーンズ」、「ボディコンシャスの服」．．．などで、雰囲気は「シンプル」、「スポーティ」、「シック、上品な」なものと思う

男性は「スポーティ」（16名）で、「清潔感のある」（13名）、「ミニスカート」（11名）ならうれしい

<表-3>デートの時、彼が好きな、喜ぶファッション<女性>（ベスト10）

順位	服 装	件 数
1	ミニスカート	26
2	ワンピース	24
3	ジーンズ	22
4	ボディコンシャスの服	16
5	ブラウス	13
6	タイトスカート	11
7	Tシャツ	8
8	スーツ	7
9	フォーマルウエア	5
9	肌のあまり出ない服	5

順位	雰囲気・イメージ	件 数
1	シンプルな	15
2	スポーティーな	10
2	シック、上品な	10
4	T・P・Oにあった	8
4	ドレスシーな	8
6	大人っぽい	7
7	女性らしい	6
7	かわいい	6
9	カジュアルな	5
10	ラフな	4

<女性>にデートの時、彼が好きな、喜ぶファッションは何か、服装の種類や雰囲気・イメージを自由にあげてもらいました。

彼が好きな、喜ぶ服装としては、「ミニスカート」が26名で最も多く、次いで「ワンピース」が24名、「ジーンズ」が22名で続き、ベスト3となっています。以下「ボディコンシャスの服」（16名）、「ブラウス」（13名）、「タイトスカート」（11名）などが上位にあげられています。

また、服装の組み合わせとしては、「ジーンズ+Tシャツ」、「ジーンズ+ポロシャツ」、「ジーンズ+ブラウス」、「ミニスカート+ポロシャツ」、「ミニスカート+ブラウス」などがあげられています。

次に、彼が好きな、喜ぶファッションの雰囲気・イメージをみると、「シンプルな」が15名で最も多く、以下「スポーティーな」、「シック、上品な」（各10名）、「T・P・Oにあった」、「ドレスシーな」（各8名）などが続いています。



<表-4>うれしい彼女の服装・ファッション<男性> (ベスト10:名)

順位	服装・ファッション	件数
1	スポーティな服装	16
2	清潔感のある服	13
3	ミニスカート	11
4	和服	9
5	その人に似合った服	8
6	かわいい服	7
6	シンプルな服	7
6	セクシーな服	7
9	ボディコンシャスの服	6
9	明るい色の服	6

一方、<男性>はデートの時、彼女がどんな服装・ファッションだと嬉しいと思っているのかをみると、「スポーティな服装」という人が16名と最も多く、以下「清潔感のある服」(13名)、「ミニスカート」(11名)、「和服」(9名)、「その人に似合った服」(8名)が続きベスト5となっています。

「シンプルな」、「スポーティな」服装という点は男女の見解が一致しているようです。

### 3. よく効く“口説き文句”

男女とも「好き」、単純にしてストレートが第一

<表-5>よく効く口説き文句

	男性から女性へ		女性から男性へ	
女性	1位：好きだよ	17	1位：好き	12
	2：愛している	10	2：あなたについていきます	9
	2：いつも一緒にいたい	10	3：一緒にいたい	8
	4：二人だけでいようね	9	4：あなたしかいない	7
	5：一緒になろう	7	5：愛している	6
	5：君だけ	7	6：男らしい	5
	7：きれいだ	6	7：あなたがすべて	3
	7：離さないよ	6	8：頼っていいですか	2
	9：ステキだよ	5	8：やさしい	2
	9：かわいいね	5	8：子供がほしい	2
			8：下着を洗ってあげたい	2
男性	1位：好きだ	9	1位：好き	14
	2：愛しているぜ	4	2：ずっと一緒にいたい	4
	2：俺の女になれよ	4	3：今日はずっと一緒にいて	3
	2：二人の愛は永遠さ	4	3：あなたしかいないの	3
	5：おまえにほれた	3	3：離れないで	3
	5：いつも一緒にいたい	3	6：ステキ	2
	5：おまえが一番幸せになる方法は俺と一緒にになるとだぜ	3	6：頼れる	2
			6：あなたのわがママが、だんだん好きになってきた	2
			6：あなたの腕に抱かれてみたい	2
			6：あなたの世話をしたい	2

言われて効き目のあった、言って効き目のあった“口説き文句”をみると、男性が言っても、女性が言っても、よく効くのは「好き」という言葉です。次いで男性からは「愛している」が多く、女性からは「一緒にいたい」が目立っています。

他に少数派の回答をみると、女性が言われて効き目があったのは、

- ・人生のパートナーに
  - ・死ぬまで一緒だよ
  - ・どんなことがあっても守ってみせる
  - ・家事を全部してあげる（各1名）
- など、

一方、男性が言われて効き目があったのは、

- ・多分、あなたのことが一生好きだと思う
- ・時々、思い出して下さい
- ・あなただけの人になりたい（各1名）

などです。

#### 4. よく効くプレゼント

女性へは「指輪」、男性への「洋服」

<表-6>よく効くプレゼント

	男性から女性へ		女性から男性へ	
女性	1位：指輪	45	1位：ネクタイ	23
	2：アクセサリ	32	2：洋服	18
	3：花	29	3：バッグ	14
	4：ネックレス	25	4：手編みのセーター	13
	5：洋服	16	5：ベルト	12
	6：プレスレット	11	6：タイピン	11
	6：バッグ	11	6：時計	11
	8：時計	10	8：ライター	10
	9：手紙	8	9：プレスレット	8
	10：結婚指輪	5	10：手紙	7
男性	1位：指輪	28	1位：洋服	17
	2：ネックレス	20	(セーター・ボジャツ)	
	3：花束	19	2：ネクタイ	12
	4：バッグ	14	3：腕時計	9
	5：アクセサリ	10	4：アクセサリ	7
	6：洋服	8	4：手作りの物	7
	7：愛	3	6：タイピン	5
	7：プレスレット	3	7：ライター	4
	7：イヤリング	3	7：キーホルダー	4
	7：時計	3	7：手編みのセーター	4
		7：本	4	

女性によく効くプレゼントは、第一に「指輪」（45名）で、これは品物プラスついている約束事がうれしいのでしょう。そして「ネックレス」などの「アクセサリ」、「花」と続きます。衣類やアクセサリが中心ですが、他に「手紙」、「メロディ電報」、「やさしい言葉」など、メッセージもうれしいもののようです。

男性によく効くのは「洋服」や「ネクタイ」。女性は「ネクタイ」や「手編みのセーター」がよく効くと思っているのですが、男性はどちらかというと「洋服」、「腕時計」などやや高額品の方がうれしそう。「本」や「システム手帳」という知性派や「車」、「部屋の鍵」といったアダルト派もみられます。